

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	小岩 信義	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「かがやく生き方 心身健康科学 第3版」(人間総合科学大学刊/紀伊国屋書店発売) 「心身一如の科学」 (人間総合科学大学刊)
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	講義では、講義内容に関するプリントを配布する。講義ノートをつけるとともにプリントを整理して保管し、学習に役立てること。

科目の目標	人間のこころと身体の相互作用(心身一如/心身相関)を支える法則と、科学的な仕組みを理解し、「よりよく生きる」ための科学的な知恵を考える。
授業概要	鍼灸臨床にも必要となる心身一如・心身相関に関する科学的理解と、この知見を生活の中でどのように活かすのか、その工夫について学修する。

日程

回 数	授業内容
1	心身相関の科学の特徴と社会背景
2	生きることと心身相関の科学ー①(生活と神経神話)
3	生きることと心身相関の科学ー②(科学リテラシー)
4	感覚・運動と心身相関①(神経組織、ミエリンサイクル、機能局在)
5	感覚・運動と心身相関②(機能局在ドグマ、連合野、感覚と知覚の違い)
6	視覚経路、網膜の構造、視床(情報の集配センター)と視床下部
7	情動反応と扁桃体、視覚意識と視覚反応 扁桃体
8	シナプスの可塑性、プルーニング現象
9	what 視覚路、where (how) 視覚路、注意、錯覚(change blindness、マガーク効果など)
10	意識と無意識、随意的運動と不随運動の区別の限界(錐体路、錐体外路)、運動準備電位
11	小脳の構造と機能、エラー検出器、内部モデル、LTPとLDP、運動学習
12	体性感覚の伝導路、ホムンクルス、皮質の可塑的变化、痛覚一般
13	収束投射説、関連痛、下降性疼痛抑制系
14	身体図式と心身相関(感覚の統合、深部感覚、自己意識と「からだ」)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	身体と科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	橋本 侑也	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「勝ちにいくスポーツ心理学」高畑好秀 著（山海堂）
成績評価	定期試験で評価
留意事項	特になし

科目の目標	人体の生理メカニズムの理解、スポーツ科学やトレーニングについて学ぶ。
授業概要	身体のメカニズムを知り、スポーツを行う時の身体の動き・しくみ、様々な環境下における生理応答のメカニズムとその機能を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	授業ガイダンス
2	機能解剖 骨について1
3	機能解剖 骨について2
4	機能解剖 骨について3
5	機能解剖 筋について1
6	機能解剖 筋について2
7	機能解剖 筋について3
8	レジスタンストレーニング1
9	レジスタンストレーニング2
10	スポーツバイオメカニクス
11	イメージトレーニング
12	メンタルトレーニング
13	スポーツ心理学
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	人文科学（医用英語）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	金井 泉寿	教員区分	一般教員

教 科 書	「配付資料」（授業の都度配布）
参 考 書	「鍼灸師・柔道整復師のための医学英語」中村清他著（医道の日本社）
成績評価	随時実施する小テスト及び定期試験で評価する。
留意事項	1. 簡単な身体各部の名称や医用英語の確実な修得を目指す。 2. 実用英語を重視しロールプレイなどを通して意思疎通を実践的に演練する。

科目の目標	英語の基礎的事項を確実に理解するために文法、ボキャブラリー、スピーキング、リスニング能力の向上を図り、配布資料及び参考書に基づき、医療現場における英語によるコミュニケーションの基礎を確立する。
授業概要	1. グラマー：品詞、文型を理解しその運用能力を向上する。 2. ボキャブラリー：特に医学分野の語彙を重視し修得する。 3. スピーキング：少ない語彙を自分なりに工夫をし、意思を伝えることを学習する。 4. リスニング：国籍により発音が多様であることを理解し意思疎通を演練する。

日程

回 数	授業内容	
1	素養試験	世界で話される英語
2	グラマー 1：品詞	医用英語：身体各部の名称 1
3	グラマー 2：文型	医用英語：身体各部の名称 2
4	ボキャブラリー 1：語彙の成り立ち	医用英語：筋肉の名称 1
5	ボキャブラリー 2：語彙の増やし方	医用英語：筋肉の名称 2
6	スピーキング 1：発音の基礎	医用英語：骨格の名称 1
7	スピーキング 2：日本人特有の発音	医用英語：骨格の名称 2
8	リスニング 1：音の識別	医用英語：関節運動 1
9	リスニング 2：国による多様な発音	医用英語：関節運動 2
10	会話 1：挨拶、受付	医用英語：傷病名、症状
11	会話 2：診察、問診	医用英語：問診表
12	会話 3：施術	医用英語：薬、服用
13	会話 4：会計、その他	医用英語：医療施設・用具
14	総合練習	
15	定期試験	
16	定期試験解答と解説、総合復習	

科 目	人間学 I	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
教 員 名	内藤 潔	実施学期	前期

教科書	指定なし（1週間前にレジュメを配布し、当日にパワーポイントで講義する）
参考書	毎回のレジュメで紹介するが、主なるものは以下です。 『交換の社会学』橋本茂著（世界思想社） 『贈与論』マルセル・モース著（ちくま学芸文庫） 『功利主義入門：はじめての倫理学』児玉聡著（ちくま新書） 『ファッションの技法』山田登世子著（講談社現代新書） 『ファッションの文化社会学』ジョアン・フィンケルシュタイン著・成実弘至訳（せりか書房） 『自発的隷従論』エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ著/西谷修監修・訳（ちくま学芸文庫） 『監獄の誕生』ミッシェル・フーコー著／田村俣訳（新潮社） 『自由からの逃走』エーリッヒ・フロム著／日高六郎訳（東京創元社） 『行動経済学』友野典男著（光文社新書） 『信頼の構造』山岸俊男著（東京大学出版会） 『ファスト&スロー』ダニエル・カーネマン著（ハヤカワ文庫） 『「新しい働き方」の経済学』井上義郎著（現代書館） 『フリーライダーあなたの隣のただのり社員』河合太介・渡部幹著（講談社現代新書）
成績評価	中間レポート 30%、定期試験 70%で評価
留意事項	定期試験は記述式の小論文です。初回授業からそれを意識して聴講してください。

科目の目標	まず、職業人として今後必要となる「社会と人間のリアルな関係性」を理解することを目標とします。そのため基本的な人間の社会的行動における原理を学びます。次いで、その理解を基に、自分なりに現実社会へ「定位」できる（自分の居場所を得られる）、そうした「社会的な技術」の把握を目指します。
授業概要	授業内容で暗記するようなことは、ほとんどありません。何よりも自分で考えることが中心的な課題となります。授業では、身近に起こっている社会的な事象をたくさん紹介します。社会的な関係が成立しているところには、必ず交換関係が存在するという観点に立ち、こうした事象を一緒に分析します。そして、そこで交換される「交換財」や「交換形式」を学びながら、自分なりの行動原理を考えていくことになります。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンスと授業のイントロダクション
2	●人間の基本的な行動原理 ① 感情と理性 ② 5つの一般命題（人間行動の基本的な説明原理）
3	●社会行動は「財」の交換 ① 交換という関係性（交換論の立場の解説） ② 互酬性（贈与と返礼の関係性） ③ 功利主義（快楽と苦痛が人間を動かす根本原理）

4	●権力と権威の在りどころ ① 勢力と権力 ② 利害関心最少の原理（惚れた弱み） ③ 「中央化」とは（偉そうな人間の存在構造）
5	●挨拶はなぜ必要か？ ① 規範と集団（同調には報酬、逸脱には罰を） ② 空間浸食（縄張り争い） ③ マナー、作法（安全保障に向けた同質性の証明）
6	●ファッションの意味 ① 逸脱には罰を（所属集団の明示と期待に対する応答性、時流との整合性） ② 同一性と差異性（異なる願望の同時達成） ③ 印象の資源化（交換関係における価値の操作）
7	●アメとムチ（他者統制の方法） ① 罰による統制 ② 本姓としての自由（自由剥奪の様々な方法を罰という） ③ 人間本姓としての隷従願望（誰かに従っていないと不安）
8	●人と人の結びつき（紐帯）の原理的傾向 ① バランス理論（態度を変えるときの説明原理） ② 関係の多面化（離れられない関係になる理由）
9	●どちらが損か得か（合理性命題） ① 経済学と「経済人」（ホモ・エコノミクスという社会的な人間類型） ② 功利主義（快楽の増大と苦痛の減少＝道德の基礎） ③ 合理性命題（損得勘定の原理）
10	●いつでも都合の良い他人（捨象の産物） ① 認識と思考のメカニズム（知覚→認識→思考） ② 具体から抽象へ（「余分」を切り取った認識パターン） ③ ユーザーの捨象（権力的な関係が生まれる構造）
11	●もめごとの本質（他人の空間的な侵犯） ① 行為の越境 ② 権利の両属空間（どちらにも権利がある） ③ 調停の限界（法では解決できないこと）
12	●安全・安心／ファスト思考とスロー思考 ① 安心ということ ② 信頼の構造（「一般的信頼」が大切） ③ 一般的信頼を高める方法 ④ 早い思考と遅い思考（私たちの脳は怠け者：認知容易性の落とし穴）
13	●何を基準に仕事を選ぶのか？ 給料をもらうとは？ ① 認知容易性（楽そうなことをすぐ選ぶ） ② 「比較優位」の原理（得意なことを仕事にする） ③ 実際の職業生活における「交換」
14	●「公」への無関心 ① フリーライダー問題（ただ乗り） ② 割れ窓理論（放置の問題性） ③ 権利・責務意識の変化（権利主張の風潮） ④ 行為と距離（物理的距離と心理的距離）
15	定期試験
16	まとめ

科 目	解剖学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	渡辺 悠美	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	適宜紹介
成績評価	2回目以降に授業内で行う小テストの成績を4割, 期末試験の成績を6割の総合評価とする。 ただし, 期末試験で60点未満, 総合評価60点未満の者は再試験とする。
留意事項	3年間の勉強の基礎となる科目のため, しっかりと復習をしましょう。

科目の目標	人間の体のつくり(構造)を学び, 人体に興味を持つ。
授業概要	全身の骨の名称の正しい名前・位置を覚える。 全身の関節の構成と形状を覚える。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・全身の骨の名称
2	上肢帯・上腕
3	前腕・手
4	下肢帯・大腿
5	下腿・足
6	寛骨・脊柱
7	頭蓋骨 1
8	頭蓋骨 2
9	骨の総論・体の区分含む
10	関節の総論 (運動軸含む)
11	上肢の関節
12	下肢の関節
13	脊柱・胸郭の関節
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	野田 節子	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「入門人体解剖学」 藤田恒夫 著 (南江堂) 「これならわかる要点解剖学」 石橋治雄 監修 (南山堂) 「分担解剖学」 (金原出版) 「プロメテウス解剖学アトラス」 坂井建雄 監訳 (医学書院) 他に授業時に配布する資料を参考にする。
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。授業に集中する。

科目の目標	前期は解剖学の概説を学び、続いて循環器系と呼吸器系の構造と機能を知る。学ぶ過程では、常に自身に投影させる努力をすることで人体の営みを身近なものとして理解する。
授業概要	人体を構成する組織、循環器系、呼吸器系の各部位・各臓器の正確な名称を把握する。その上で、体内におけるそれらの位置関係(立体構造)と役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	第1章人体の構成 1:細胞(細胞の構造、細胞分裂)
2	第1章人体の構成 2:組織(上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織)
3	第1章人体の構成 3:体表解剖(皮膚の構造・神経と血管、毛、爪、皮膚腺)
4	第2章循環器系 1:血管系(概要、構造、体循環と肺循環)
5	第2章循環器系 2:心臓(位置、心膜、心房と心室、弁膜、刺激伝導系、心臓の血管)
6	第2章循環器系 3:動脈系(肺循環の動脈系、体循環の動脈系)
7	第2章循環器系 4:静脈系(肺循環の静脈系、体循環の静脈系、門脈循環系)
8	第2章循環器系 5:胎児循環 6:リンパ系
9	体幹の脈管(228~232p)、上肢の脈管(257~258p)
10	下肢の脈管(287~289p)、頭頸部の脈管(305~309p)、循環器系の復習
11	第3章呼吸器系 1:呼吸器系の総論、鼻腔と副鼻腔
12	第3章呼吸器系 2:咽頭と喉頭 3:気管と気管支 4:肺(肺の構造、胸膜、縦隔)
13	呼吸器系の復習
14	総合復習
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	生 理 学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	本 多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「標準生理学」 本間研一 監修 (医学書院) 「人体の正常構造と機能」 坂井建雄ら 編集 (日本医事新報社) 「生理学インパクト」 原田晃 著 (医道の日本社)
成績評価	定期試験による
留意事項	病理学や臨床医学各論の基礎となる科目のため理解することに重きをおく。

科目の目標	生体の正常な機能を理解することで、他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上で の基礎を養い、はり師・きゅう師に必要な生体の機能を習得する。
授業概要	本講義では、循環、生体の防御機構、呼吸について取り上げ、人体の生理を維持するメカ ニズムなどを学ぶ。

日程

回 数	授 業 内 容
1	授業概要説明、循環1：血液の組成と働き（赤血球）
2	循環2：血液の組成と働き（白血球，血小板，血漿）
3	循環3：止血，線維素溶解
4	循環4：血液型，心臓血管系，心臓の構造
5	循環5：心臓の構造と働き（心筋の特性，刺激伝導系，心機能の調節）
6	循環6：心臓の構造と働き（心電図，神経支配） 血液循環（血管，脈拍，毛細血管の循環）
7	循環7：血液循環（静脈，神経支配，血圧）
8	循環8：循環調節（調節の仕組み，循環中枢，反射性調節，高位中枢からの影響）
9	循環9：循環調節（特殊な部位の循環），リンパ系 生体の防御機構1：生体の防御機構（自然免疫，獲得免疫）
10	生体の防御機構2：生体の防御機構（白血球，液性因子，リンパ系器官）
11	生体の防御機構3：免疫反応の分類（液性免疫と細胞性免疫，炎症，アレルギー，）
12	呼吸1：呼吸器（外呼吸と内呼吸，構造と機能），換気とガス交換（肺機能）
13	呼吸2：換気とガス交換（交換と運搬），呼吸運動とその調節（吸息，呼息，胸腔内圧）
14	呼吸3：呼吸運動とその調節（呼吸中枢，反射性調節，異常）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生理学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	根本 香代	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない
成績評価	小テスト、課題提出、定期試験による総合評価 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行なうこと

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅲにおいては、生理学の基礎、内分泌、生殖、身体活動の協調、体温について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時、小テストを行い、理解の度合いを確認しながら、進める。

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎①：生理機能の特徴、細胞の構造と機能
2	生理学の基礎②：物質代謝、体液の組成と働き、物質移動
3	内分泌①：ホルモンの特徴
4	内分泌②：視床下部ホルモン、下垂体ホルモン
5	内分泌③：甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓のホルモン
6	内分泌④：副腎のホルモン
7	内分泌⑤：性ホルモン
8	生殖①：生殖
9	生殖②：妊娠と出産、成長と老化
10	体温①：体温調節、体熱の産生と放散
11	体温②：発汗とその調節、体温調節の障害
12	身体活動の協調①：生体の適応、恒常性維持
13	身体活動の協調②：バイオリズム
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療倫理	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「社会あはき学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験による
留意事項	医療ならびに職業について、自身で考えを持って授業に参加する。

科目の目標	医療人が患者様から信頼を得るためにはどうすればよいかを考える。また、鍼灸業界のいろいろを知り、鍼灸師としてとるべき態度はいかなるものか、治療者に必要なものは何か、そして何のために鍼灸師になろうと思ったのかを考え、目的を持った学生生活を送るための課題を考えていく。
授業概要	治療者としての基本的な心構え、知識を共に考えていくとともに、目標および目的を設定していく。

日程

回 数	授業内容
1	目的および目標
2	理想の医療人（鍼灸師）とは
3	鍼灸の現場の現状
4	医療の倫理と職業倫理
5	職業としての鍼灸
6	現代の課題、諸問題
7	定期試験
8	総括およびそうまとめ

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験を8割、小テストを2割として総合評価をする。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 教科書・プリントは指示がなくても毎回持参して下さい。 授業内容の復習を心掛けて下さい。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。

科目の目標	本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。
授業概要	鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置をきちんと理解し実践できること。 鍼灸療法の禁忌やリスク、副作用について理解し把握すること。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、概論
2	リスク管理(感染症対策)
3	鍼の基礎知識①
4	鍼の基礎知識②、刺鍼の方式と術式①
5	刺鍼の方式と術式②
6	特殊鍼法
7	灸の基礎知識
8	灸術の種類
9	鍼灸の臨床応用①
10	鍼灸の臨床応用②
11	鍼灸の臨床応用③
12	リスク管理①
13	リスク管理②
14	総合演習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参 考 書	「ツボがある本当の意味」	栗原誠 著	(BABジャパン)
	「針灸学〔経穴編〕」	兵頭明 翻訳	(東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」	池田政一 編著	(医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」	篠原昭二 著	(医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」	天津中医薬大学 編	(東洋学術出版社)
成績評価	小テスト3割, 定期試験7割による総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。		
留意事項	授業内で経穴名, 取穴法が覚えられるよう集中して臨むこと。 授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得し, 鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義と体を使用したアクティブラーニングの形式で実施する。授業開始時と終わりに小テストを実施し, 理解度を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	1 章 経絡・経穴の基礎, 2 章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経①
2	2 章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経②, 手の陽明大腸経①
3	2 章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経①
4	2 章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経②
5	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経①
6	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経②
7	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経③
8	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経④
9	2 章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経①
1 0	2 章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経②
1 1	2 章 十四経脈とその経穴 手の少陰心経, 手の太陽小腸経①
1 2	2 章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸経②
1 3	2 章 十四経脈とその経穴 督 脈, 任 脈
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	東洋医学概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜、紹介をする
成績評価	定期試験の結果を主に、授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。質問は授業終了時までには必ず行い、疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。
授業概要	東洋医学の歴史や哲学、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴：東洋医学の沿革・人体の見方・東洋医学的治療
2	第3章 東洋医学の思想：陰陽学説
3	第3章 東洋医学の特徴：五行学説
4	第2章 生理と病理：生理物質と神（生理物質）
5	第2章 生理と病理：生理物質と神（神）
6	第2章 生理と病理：生理物質と神（人体における陰陽）
7	第2章 生理と病理：蔵象学説
8	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肝）
9	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（心）
10	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（脾）
11	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肺）
12	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（腎・三焦）
13	第2章 生理と病理：五臓の相互関係・六腑の協調関係
14	第2章 生理と病理：全身の気機
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、及び総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること 体調をしっかりと管理し、遅刻・欠席をしないこと (欠席－4点、遅刻・早退－2点、ふさわしくない身だしなみ－2点)

科目の目標	鍼灸の基本および身体各部への安全な鍼灸法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。
授業概要	鍼灸に必要な基礎知識を学習する。衛生管理 (用具・手指などの清潔保持、消毒)、医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な鍼灸が行えるよう基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	鍼の基礎知識① 手指の衛生管理
2	鍼の基礎知識② 姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管
3	押手
4	前揉法～立管①、切皮①
5	部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、抜鍼
6	鍼の基礎知識③ 部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ①
7	部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ②、刺入練習 (刺鍼練習器など) ①
8	刺入練習 (刺鍼練習器など) ②、鍼尖感覚の練習
9	鍼の基礎知識④ 刺入練習 (各自：大腿部) ①
10	刺入練習 (各自：大腿部) ②

1 1	刺入練習（各自：大腿部）③
1 2	刺入練習（各自：大腿部）④
1 3	刺入練習（各自：大腿部）⑤
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	刺入練習（各自：まとめ）

科 目	灸基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	前窪 美香・割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	実技試験, 課題提出, 出席状況, 授業態度, 身だしなみによる総合評価. 実技試験が6割以下の者, 及び総合評価が6割以下の者は再試験とする.
留意事項	火の取り扱いに十分注意し, 自宅でも反復練習に努めること. 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみ-2点). 体調をしっかり管理し, 遅刻・欠席・早退をしないこと (欠席-4点, 遅刻・早退-2点).

科目の目標	灸に関する基礎的な知識, 技術を習得し, 灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける.
授業概要	灸の基礎知識を学び, 施灸の基礎技術を習得する.

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方, 実習上の諸注意, 備品の取り扱い・準備について
2	灸の基礎知識①, 施灸練習 (艾のひねり方, 艾の立て方) ①
3	灸の基礎知識②, 施灸練習 (艾のひねり方, 艾の立て方) ②
4	施灸練習 (線香の使い方, リスク管理)
5	施灸練習 (点火) ①
6	施灸練習 (点火) ②
7	施灸練習 (灸温度計)
8	施灸練習 (紙への施灸) ①
9	施灸練習 (紙への施灸) ②
10	施灸練習 (紙への施灸) ③

1 1	施灸練習（紙への施灸）④
1 2	施灸練習（紙への施灸）⑤，実技試験説明
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	試験のフィードバック
1 6	総復習

科 目	社会科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	教科書は使用しません。教員が適宜資料を配布します。
参考書	指定参考書はありません。授業で参考文献を紹介しますので、そのいずれかを開講期間中に読んでみることを推奨します。
成績評価	授業内小テスト 40%＋終講試験 60%（小テストを実施しない場合は終講試験のみで評価）
留意事項	具体的社会事象を扱います。最新の時事問題を取り上げることもあるので、普段から新聞・テレビ・ネット等を用いてニュースに触れるよう心掛けてください。授業内容に関してシラバスの一部変更もあり得ますが、その際は変更する内容と理由を事前にアナウンスします。

科目の目標	「社会」と「個」の関りを学際的な視点から読み解きます。社会的慣習や法、行政制度などの意味・目的・機能・問題点を検討します。
授業概要	シネメデューケーション cinemeducation*形式で授業を進める予定ですが、授業短縮化に伴い、映像資料の使用については適宜検討します。 *映画やテレビ番組の一部を教育に使用する教育方略

日程

回 数	授業内容
1	社会科学とは何か——社会科学のアウトライン
2	社会とは何か——集団・組織、フォーマル組織・インフォーマル集団、社会化
3	通過儀礼①——通過儀礼の具体例とその意味
4	通過儀礼②——分離→移行→結合のプロセス、死と再生のシンボリズム
5	現代社会生活と法①——憲法・刑法・刑事訴訟法
6	現代社会生活と法②——刑事裁判の問題点
7	裁判員制度①——裁判員制度に関する詳細、市民参加型裁判の類型
8	裁判員制度②——判決・量刑、正当防衛・過剰防衛・執行猶予
9	社会と犯罪①——犯罪をめぐる解釈枠組み
10	社会と犯罪②——社会的排除・包摂
11	ネット社会と監視社会①——ネット犯罪と関連法規
12	ネット社会と監視社会②——監視社会と管理社会
13	社会保障と公衆衛生①——医療保険制度、高齢者介護問題
14	社会保障と公衆衛生②——国家試験関連過去問解説
15	定期試験
16	定期試験の解答解説、授業総括

科 目	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	渡辺 悠美	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	期末試験6割, 課題提出4割の総合評価とする。 期末試験ないし総合評価が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	オンライン配信中に質問を投げかけることがあるので, 指名されたら回答をしてください。 質問がある場合は, 配信中もしくは登校日に必ず質問すること。

科目の目標	前期の知識(骨の名称)をもとに, 筋肉がどこにあるのかを理解する。 筋肉の作用を自分の体を用いてイメージできるようにする。
授業概要	全身にある重要な筋肉の起始・停止・支配神経・作用を覚える。 骨の部位名(主に筋の起始停止に関わる場所)の復習をする。

日程

回 数	授業内容
1	上肢帯・上腕の筋
2	前腕の屈筋(浅層・深層)
3	前腕の伸筋(浅層・深層)
4	大腿の筋(前面・内面・後面)
5	下腿の筋(前面・外側面・後面)
6	体幹の筋(浅胸筋・深胸筋・横隔膜)
7	腹部・背部の筋
8	背部の深層筋
9	内寛骨筋・外寛骨筋
10	咀嚼筋・頸部・表情筋
11	舌骨上筋・舌骨下筋
12	会陰筋・手の内在筋・足の内在筋
13	骨の総論
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	野田 節子	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参 考 書	「入門人体解剖学 改定5版」	藤田恒夫	著 (南江堂)
	「これならわかる要点解剖学」	田沼久美子ら	著 (南山堂)
	「分担解剖学3 感覚器学・内臓学 第11版」	小川鼎三	著 (金原出版)
	「プロメテウス解剖学アトラス」シリーズ		(医学書院)
	授業時に配布する資料		
成績評価	定期試験の結果による。		
留意事項	100%の出席を目指す。集中して授業に参加する。		

科目の目標	内臓学の構造と機能を学ぶことで、各自が各臓器を自身に投影させ人体の営みを理解する。
授業概要	消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の名称と形態を中心に学び、体内における相互の位置関係(立体的構築)を把握し、その役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	消化器系1 消化器系の総論と組織、口腔
2	消化器系2 咽頭、食道、胃
3	消化器系3 十二指腸、肝臓、胆嚢、膵臓
4	消化器系4 空腸、回腸、結腸、直腸、肛門
5	消化器系5 腹膜、腸間膜、消化器系のまとめ
6	泌尿器系1 泌尿器系の総論と組織、腎臓
7	泌尿器系2 尿路、泌尿器系のまとめ
8	生殖器系1 女性生殖器系
9	生殖器系2 男性生殖器系
10	生殖器系3 受精と発生、生殖器系のまとめ
11	内分泌系1 脳下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体
12	内分泌系2 副腎、膵臓、性腺
13	内臓系のビデオ閲覧
14	解剖学Ⅳの復習
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	解剖学Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	島田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	カラー図解 脳・神経のしくみ・はたらき辞典 野上春雄 著(西東社) カラー図解 人体の正常構造と機能Ⅷ神経系(1) 河田光博・稲瀬正彦 著(日本医事新報社) その他必要に応じてプリントを配布。
成績評価	定期試験。60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	予習・復習には十分時間をかけること。

科目の目標	神経系・感覚器系の構造(形態)を学ぶことで、各器官との相互関係を知り、各疾患等の病態を理解する礎を築く。
授業概要	基本的には教科書に従って行なう。

日程

回 数	授業内容
1	神経系1 神経系の総論ならびに概要(神経組織、神経膠細胞)
2	神経系2 中枢神経 脊髄、延髄、橋、中脳、小脳
3	神経系3 中枢神経 脊髄、延髄、橋、中脳、小脳
4	神経系4 中枢神経 間脳、大脳(機能局在、基底核含む)
5	神経系5 脳の血管、脳室系、髄膜、脳脊髄液
6	神経系6 伝導路・脳神経2
7	神経系7 中枢神経2～6の復習
8	神経系8 脊髄神経 頸神経、皮神経、全体像
9	神経系9 脊髄神経 腕神経叢、胸神経、デルマトーム
10	神経系10 脊髄神経 腰神経叢、仙骨神経叢
11	神経系11 神経系6～10の復習
12	感覚器系1 嗅覚器、視覚器(伝導路含む)
13	感覚器系2 平衡聴覚器、味覚器
14	感覚系の復習
15	定期試験
16	授業総括

科 目	生理学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「標準生理学」小澤滯司/福田康一郎 監修(医学書院) 「人体の正常構造と機能 第3版」坂井建雄 編集(日本医事新報社)
成績評価	定期試験
留意事項	病理学や臨床医学各論の基礎となる科目のため理解することに重きをおく。

科目の目標	生体の正常な機能を理解することで、他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上での基礎を養い、はり師・きゅう師に必要な生体の機能を習得する。
授業概要	本講義では、消化と吸収、代謝、排泄について取り上げ、人体の生理を維持するメカニズムなどを学ぶ。オンラインのため疑問点は登校時に担当教員へ確認をすること。

日程

回 数	授業内容
1	消化と吸収1:消化と吸収,消化管の運動(咀嚼,嚥下)、授業概要説明
2	消化と吸収2:消化管の運動,働き,消化液(胃)
3	消化と吸収3:消化管の運動,働き,消化液(小腸,膵臓,胆嚢)
4	消化と吸収4:消化管の運動,働き,消化液(小腸,大腸)
5	消化と吸収5:肝臓の働き,摂食の調節
6	代謝1:食品と栄養素(栄養素の働き),代謝(栄養素のエネルギー,エネルギー代謝)
7	代謝2:各栄養素の働きと代謝(糖質,脂質)
8	代謝3:各栄養素の働きと代謝(タンパク質,ビタミン・無機質・水,代謝の調節)
9	消化吸収、代謝のまとめと復習
10	排泄1:腎臓の働き,腎循環
11	排泄2:尿生成(ネフロンと尿生成,糸球体濾過,尿細管の再吸収)
12	排泄3:尿生成(尿細管の分泌,腎機能の測定,尿の成分)腎臓と体液の調節
13	排泄4:蓄尿と排尿
14	排泄のまとめと復習
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	生理学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教 員 名	根本 香代	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない
成績評価	小テスト、課題提出、定期試験を総合的に評価する 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行なうこと

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅳにおいては、神経および感覚の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時、小テストを行い、理解の度合いを確認しながら、進める。

日程

回 数	授業内容
1	神経：ニューロンの構造と働き、神経線維の興奮伝導
2	神経：シナプス伝達
3	神経：中枢神経系の分類と機能
4	神経：反射、脊髄、脳幹
5	神経：小脳、視床、視床下部
6	神経：大脳、脳脊髄液
7	神経：末梢神経系の分類と機能
8	神経：自律神経系Ⅰ
9	神経：自律神経系Ⅱ
10	感覚：感覚の分類と一般的性質
11	感覚：体性感覚
12	感覚：内臓感覚、痛覚
13	感覚：味覚と嗅覚、聴覚、平衡感覚
14	感覚：視覚
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	中川米造 監修『医療概論』（医歯薬出版）
参考書	授業内で紹介する
成績評価	定期試験にて行う
留意事項	現在生じている保健・医療・福祉における諸問題についても関心を払うように努める。 専門家であるためには、その分野の歴史・言葉・倫理が重要であることにも留意する。

科目の目標	医療とは何かを意識しながら、現代日本の医療状況を知り、将来の医療はどうあるべきかを考える。そして、その中で、医療人としての自らの将来像を構想する。
授業概要	現代日本の医療状況と問題点について概観する。 医療の歴史について、主として西洋医学の歴史を概観する。

日程

回 数	授業内容
1	日本の医療と医療制度の現況
2	日本の医療の問題点
3	地域の医療と福祉
4	医学と医療の歴史（1）
5	医学と医療の歴史（2）
6	統合医療と伝統医学、生命倫理
7	定期試験
8	解答と解説、授業総括と補足

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	前田一彦 著「関係法規 第7版」東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）
参考書	授業内で紹介する。
成績評価	定期試験による
留意事項	はり師・きゅう師として適正に活動するためにはどうすれば良いのか、制度的な基礎事項を理解して下さい。 自分や周囲の人々などが保健・医療・福祉の分野において、知りたいこと・困っていること・疑問に思っていることにはどんなものがあるのか、考えてみて下さい。

科目の目標	あはき師に関わる法令の基本を理解する。 日本の保健・医療・福祉に関わる制度の基本を理解する。
授業概要	鍼灸師にとって最低限必要な法令を学ぶ。 将来必要に応じて法令の内容を調べ、理解するための基礎力を身に付ける。 地域の医療者として市民に対し助言・援助ができるようになるため、諸制度の基本を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	法制度と法・法令・法律、あはき施術の法的位置付け
2	医療資格とあはき師免許
3	あはき師の業務
4	施術所と広告制限、秘密保持義務
5	医療法と薬事法規
6	社会保険、公的医療保険
7	定期試験
8	解答と解説、授業総括と補足

科 目	経絡経穴概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参 考 書	「ツボがある本当の意味」	栗原誠 著	(BABジャパン)
	「針灸学〔経穴編〕」	兵頭明 翻訳	(東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」	池田政一 編著	(医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」	篠原昭二 著	(医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」	天津中医薬大学 編	(東洋学術出版社)
	「カラー版 経穴マップ 第2版」	王曉明 著	(医歯薬出版)
成績評価	小テスト3割, 定期試験7割による総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。		
留意事項	授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得し, 鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義では経穴名の由来と主治について学び, それを基に自身の体で部位を確認していく。

日程

回 数	授業内容
1	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経①
2	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経②
3	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経③
4	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎経①
5	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎経②
6	2章 十四経脈とその経穴 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経①
7	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦経②
8	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦経③
9	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経①
10	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経②

1 1	2 章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経③
1 2	2 章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経①
1 3	2 章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経②
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	東洋医学概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜紹介する。
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。質問は授業終了時までには必ず行い、疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	前期で学んだ東洋医学の知識を基礎に、より専門的な内容を理解する。 経絡や四診法などを理解し、国家試験や臨床に必要な基礎力を固める。
授業概要	東洋医学の基礎知識や成立の背景、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第2章 生理と病理：臓腑の病理①
2	第2章 生理と病理：臓腑の病理②
3	第2章 生理と病理：臓腑の病理③
4	第2章 生理と病理：五臓の相互関係①
5	第2章 生理と病理：五臓の相互関係②
6	第2章 生理と病理：六腑の協調関係
7	第2章 生理と病理：全身の気機、経絡
8	第2章 生理と病理：病因病機①
9	第2章 生理と病理：病因病機②
10	第2章 生理と病理：五臓の相互関係、経絡、病因病機の復習
11	第4章 四診：望診
12	第4章 四診：聞診
13	第4章 四診：問診
14	第4章 四診：切診、試験範囲の復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 適宜配布物を用意いたします。
参考書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「鍼灸臨床の科学」西條一止/熊澤孝朗 監修(医歯薬出版) 「自律神経機能検査 第5版」日本自律神経学会 編(文光堂)
成績評価	期末筆記試験の点数と提出物(クラスルームで通知・提出)により評価
留意事項	実験機材を取り扱う可能性があります。その場合、クラス内で数名協力者を募る事があります。

科目の目標	生理学の循環系・神経系に関わる専門用語を覚えて説明できる。 生体への刺激に対する反応の観察や検査機器の使用意義を理解する。
授業概要	主に生理学教科書と研究論文や文献などで解説されている内容を鍼灸の専門家として理解できる様に読み込みます。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	生理学分野の学習①
3	生理学分野の学習②
4	自律神経機能の観察方法の概要
5	生理学分野の学習③
6	自律神経の機能の観察(基礎)
7	生理学分野の学習④
8	自律神経の機能・生体反応の測定①
9	生理学分野の学習⑤
10	自律神経の機能・生体反応の測定②
11	生理学分野の学習⑥
12	自律神経の機能・生体反応の測定③
13	生理学分野の学習⑦
14	自律神経の機能・生体反応の測定④
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床経穴実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	割田 萌	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「プロメテウス 解剖学アトラス 総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験、出席、授業態度を総合的に評価する。
留意事項	必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 取穴し易い服装を準備すること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ-4点)。 遅刻・早退・欠席をしないこと(欠席-6点、遅刻・早退-2点)。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	経絡経穴概論で学習した経穴の取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明、ペアもしくはグループでの触擦・取穴を行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、手の太陰肺経
2	手の陽明大腸経
3	任脈
4	足の陽明胃経
5	足の太陰脾経
6	手の少陰心経・手の太陽小腸経
7	督脈
8	足の太陽膀胱経①
9	足の太陽膀胱経②
10	足の少陰腎経

1 1	手の厥陰心包経
1 2	手の少陽三焦経
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	鍼基礎実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技 第2版＜基礎編＞」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・小テスト・実習態度・出席状況を総合して評価する。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ-4点)。 基礎実習が将来の臨床へとつながるので、遅刻、早退、欠席をしないよう体調をしっかりと管理すること(欠席-6点、遅刻・早退-2点)。

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理(用具・手指などの清潔保持、消毒)、治療過誤の概要を学び安全な刺鍼法を十分に理解する。 局所解剖所見を踏まえ全身の身体各部に安全に刺入できる知識と技術(長さ、太さの異なる鍼を使用)を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、大腿部(各自)直刺(銀鍼・ステンレス鍼)
2	身体各部の刺鍼(対人): 大腿 直刺
3	身体各部の刺鍼(対人): 大腿 斜刺
4	身体各部の触診(対人): 腰部・背部のランドマークの確認、タオルワーク
5	身体各部の刺鍼(対人): 腰部 直刺
6	身体各部の刺鍼(対人): 腰部 斜刺
7	十七手技①
8	十七手技②
9	身体各部の刺鍼(対人): 下腿
10	身体各部の刺鍼(対人): 前腕

1 1	身体各部の刺鍼（対人）：後頸部
1 2	身体各部の刺鍼（対人）：腰部
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック、総合刺鍼
1 6	総合刺鍼

科 目	灸基礎実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	前窪 美香	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験, 課題提出, 出席状況による総合評価。
留意事項	火の取り扱いに十分注意し, 自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみ－4点)。 遅刻・欠席をしないこと (欠席－6点, 遅刻－2点)。 対人施灸では, 感受性の差異に留意し, 参加にあたっては体調管理に努めること。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識, 技術を習得し, 人体施灸 (透熱灸) を安全かつ確実に行える技術・態度を身に付ける。
授業概要	灸の基礎知識を学び, 一定の技量を習得し, 学生同士での人体施灸を行う。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方, 諸注意, 灸基礎実習Ⅰの復習
2	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ①
3	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ②
4	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ③
5	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸, 竹上への艾炷作成) ④
6	灸の基礎知識, 施灸練習, 消毒操作, 人体施灸 (自身への施灸) ①
7	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (自身への施灸) ②
8	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (自身への施灸) ③
9	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (対人施灸) ①
10	灸の基礎知識, 施灸練習, 人体施灸 (対人施灸) ②

1 1	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）③
1 2	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験フィードバック
1 6	総合復習

科 目	トレーニング実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	野呂 賢二	教員区分	一般教員

教 科 書	適宜資料を配布
参 考 書	授業中適宜紹介
成績評価	授業内課題、欠席、遅刻、小テスト、授業態度による総合評価。(課題レポート点数と小テストの点数を100点満点で評価し、授業態度、欠席、遅刻などはマイナス評価とする)課題が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験とする。
留意事項	遅刻や欠席をしないこと。正当な理由がない場合はマイナス点の評価になる。 スマホや授業以外の行為をしているものや授業に参加していないと見受けられたものマイナス点の評価となる。復習を行うこと。 ※授業内容は進行状況で一部変更することもある。

科目の目標	トレーニング知識を養うことで子供から高齢者まで幅広い年齢層に対して健康指導ができるようになる。
授業概要	運動機能を理解し自ら体験することで体力、健康、美の向上を図っていく。

日程

回 数	授業内容
1	体力学総論
2	トレーニングの原則
3	筋力トレーニング概要
4	運動生理学
5	ストレッチング①
6	ストレッチング②
7	ストレッチング③
8	上肢の筋力トレーニング
9	下肢の筋力トレーニング
10	スポーツ傷害

1 1	評価・プログラム設計実践①
1 2	評価・プログラム設計実践②
1 3	評価・プログラム設計実践③
、 1 4	課題
1 5	課題
1 6	まとめ

科 目	人間学Ⅲ (心理学・コミュニケーション)	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	磯村 令子	教員区分	一般教員

教科書	指定なし（毎回の授業で授業プリント冊子を配布し、利用する）
参考書	適宜、授業の進行に合わせ紹介する。
成績評価	定期試験、小テスト等による総合評価
留意事項	授業後の振り返りプリントの提出を求める

科目の目標	心理学的見地から、医療コミュニケーションに求められる要素と重要性について理解する。
授業概要	心理学の基礎を学ぶことで、自己に気づくとともに、精神的原因によっておこる主な精神神経症状を理解し、医療現場における患者理解を深める。社会的関係におけるコミュニケーションの多様性・重要性を理解し、よりよいコミュニケーションを求める態度を育成する。

日程

回 数	授 業 内 容
1	第1部心理学概論 1 心理学とその領域
2	第1部心理学概論 2 科学としての心理学
3	第1部心理学概論 3 ストレスと防衛機制
4	第1部心理学概論 4 交流分析等
5	第1部の復習とまとめ
6	第2部精神的原因によって起こる疾患と症状 1
7	第2部精神的原因によって起こる疾患と症状 2
8	第2部患者－医療者関係 「尋ねる」「聞く」「話す」「伝える」コミュニケーション
9	第2部の復習とまとめ
10	第3部対人関係の形成 1 対人関係の形成
11	第3部対人関係の形成 2 対人関係の維持 社会的スキル
12	第3部対人コミュニケーション 1
13	第3部対人コミュニケーション 2
14	第3部の復習とまとめ
15	定期試験
16	全体の振り返りと共有

科 目	解剖学VI	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	島田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学カラーアトラス」横地千仞 著(医学書院)、その他必要に応じてプリントを配布。
成績評価	小テスト2割、定期試験8割による総合評価。 定期試験60点が未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	予習・復習には十分時間をかけること。

科目の目標	人体の地図構造についてよく理解する。
授業概要	教科書に従って行う。

日程

回 数	授業内容
1	人体の構成
2	小テスト、四肢の脈管と神経1
3	四肢の脈管と神経2
4	小テスト、四肢の脈管と神経3
5	四肢の脈管と神経4
6	小テスト、四肢の脈管と神経5
7	呼吸器系1
8	小テスト、呼吸器系2・消化器系1
9	消化器系2
10	消化器系3
11	泌尿器系・生殖器系1
12	泌尿器系・生殖器系2
13	泌尿器系・生殖器系3
14	内分泌系
15	定期試験
16	授業総括

科 目	運動学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	塚本 晃介	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参 考 書	「基礎運動学 第6版」中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	臨床でも大切な内容であり、また範囲が広い内容であるため、予習・復習に努めること。

科目の目標	筋・運動学・身体各部の機能について理解し、臨床に必要な運動学の知識を理解する。
授業概要	筋・運動学・身体各部の機能について重要なところを解説し、鍼灸師として応用できるよう授業する。

日程

回 数	授業内容
1	運動学ガイダンス、骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、関節と運動の力学
2	筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋
3	骨格筋の神経支配
4	運動の調節 1
5	運動の調節 2
6	錐体路系・錐体外路系・発声と言語
7	姿勢とその異常、身体各部の機能 1 (脊柱・体幹の機能)
8	身体各部の機能 2 (肩甲帯・肩の機能)
9	身体各部の機能 3 (肘と前腕の機能)
1 0	身体各部の機能 4 (手と手指の機能)
1 1	身体各部の機能 5 (骨盤と股関節の機能)
1 2	身体各部の機能 6 (膝関節の機能)
1 3	身体各部の機能 7 (足の機能)
1 4	身体各部の機能 8 (正常歩行と異常歩行・顔面および頭部の筋)
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説

科 目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「はじめの一步のイラスト病理学」深山正久 編 (羊土社) 「なるほどなっとく!病理学」 小林正伸 編 (南山堂)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる生理学の復習を行うこと。

科目の目標	病理の基礎を学び、臨床医学各論で学ぶ疾病の病態が、どのような機序になっているか理解する。
授業概要	教科書に沿う様な形で、重要なところをわかりやすく解説・講義する。

日程

回 数	授業内容
1	病理概論・病因 1
2	病因 2
3	循環障害 1
4	循環傷害 2
5	退行性病変 1
6	退行性病変 2、進行性病変 1
7	進行性病変 2
8	炎症 1
9	炎症 2
1 0	腫瘍 1
1 1	腫瘍 2
1 2	免疫異常・アレルギー 1
1 3	免疫異常・アレルギー 2
1 4	先天性異常
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学総論 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社)
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「写真で学ぶ整形外科テスト法」 ジョセフ J・シプリアーノ著 (医道の日本社) 「診察と手技がみえる」 田邊政裕編集 (メディックメディア)
成績評価	定期試験
留意事項	基礎となる解剖学、生理学の復習や鍼灸臨床評価実習と併せた学習を行ってください。

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法、検査法の基礎知識を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	症状・所見から疾患の把握や診断に結び付けられるように、それぞれの特徴について講義する。

日程

回 数	授業内容
1	授業概要、第2章 診察の方法
2	第3章 生命徴候の診察1
3	第3章 生命徴候の診察2
4	第4章 全身の診察1
5	第4章 全身の診察2
6	第4章 全身の診察3
7	第5章 局所の診察1
8	第5章 局所の診察2
9	第5章 局所の診察3
10	第5章 局所の診察4
11	第6章 神経系の診察1
12	第6章 神経系の診察2
13	第6章 神経系の診察3
14	総まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学の復習を行うこと。

科目の目標	整形外科疾患の基本的な知識を習得する。
授業概要	整形外科疾患の病態を把握し、鍼灸治療の適応、不適応の鑑別診断を行えることを目標とし、実際の臨床に適応できるようにする。

日程

回 数	授業内容
1	総論、関節疾患Ⅰ
2	関節疾患Ⅱ
3	関節疾患Ⅲ
4	骨代謝性疾患・骨腫瘍
5	筋・腱疾患
6	形態異常
7	脊椎疾患Ⅰ
8	脊椎疾患Ⅱ
9	脊椎疾患Ⅲ
10	脊髄損傷
11	外傷
12	スポーツ外傷・傷害 その他の整形外科疾患
13	その他の整形外科疾患
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「病気が見える」シリーズ(メディックメディア) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験により評価
留意事項	病態理解を目標とする為、漫然と単語を暗記する作業に陥らないように注意する事。 各病態の関連性から、教科書の順序と若干異なる進捗となるので気を付けて下さい。

科目の目標	臨床医学各論の分野における、感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、血液造血器疾患について疾患名称とその病態把握を目指す。
授業概要	配布物を中心に、各疾患についての概念、症状、診断、治療、経過予後を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、感染症①(総論、細菌感染症①)
2	感染症②(細菌感染症②、ウイルス感染症①)
3	感染症③(ウイルス感染症②、性感染症)
4	呼吸器疾患①(感染性呼吸器疾患)
5	呼吸器疾患②(閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患)
6	呼吸器疾患③(その他の呼吸器疾患)
7	循環器疾患①(心臓疾患①)
8	循環器疾患②(心臓疾患②)
9	循環器疾患③(冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常)
10	血液・造血器疾患①(赤血球疾患①)
11	血液・造血器疾患②(赤血球疾患②)
12	血液・造血器疾患③(白血球疾患、リンパ網内系疾患)
13	血液・造血器疾患④(出血性素因)
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」東洋療法学校協会編（医道の日本社） 「新版 東洋医学概論」 東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参 考 書	「中医薬大学全国共通教材 全訳 経絡学」李鼎主編・浅野周訳（たにぐち書店 2000 年） 他、授業内で随時紹介する。
成績評価	定期試験で 60%に満たない場合再試験となる。
留意事項	実技等他教科においても経絡・経穴との関連を常に意識されたい。

科目の目標	経脈の成り立ちと、各経脈の流注と病証・要穴について理解習得する。 要穴の種類毎にその特徴・用法等を理解習得する。 経外奇穴について理解習得する。
授業概要	各経脈の流注と病証について学び・理解する。 要穴の種類と法則・使用法について学び理解する。 主要な経外奇穴の部位と適応について習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、経絡経穴の歴史（1）、経脈病証とは
2	正経十二脈の流注と病証 1. 経絡経穴の歴史（2）
3	正経十二脈の流注と病証 2. 要穴の概要
4	正経十二脈の流注と病証 3. 要穴①
5	正経十二脈の流注と病証 4. 要穴②
6	正経十二脈の流注と病証 5. 要穴③
7	正経十二脈の流注と病証 6. 要穴④
8	正経十二脈の流注と病証 7. 要穴⑤
9	正経十二脈の流注と病証 8. 要穴⑥、穴性
1 0	奇経八脈の流注と病証・経穴 1. 経外奇穴①
1 1	奇経八脈の流注と病証・経穴 2. 経外奇穴②
1 2	奇経八脈の流注と病証・経穴 3. 経外奇穴③
1 3	奇経八脈の流注と病証・経穴 4. 経外奇穴④
1 4	総復習
1 5	定期試験
1 6	解説・解答、補足

科 目	東洋医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教 科 書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション/確認テスト/1年生の復習
2	1年生の復習(臓腑、生理物質の生理・病理)
3	1年生の復習(四診)
4	穴性学の基礎1
5	穴性学の基礎2
6	頭痛
7	顔面痛/歯痛
8	顔面麻痺
9	鼻閉・鼻汁
10	眼精疲労/脱毛症/めまい
11	耳鳴り・難聴
12	咳嗽/喘息
13	胸痛/腹痛
14	症例検討
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	藤野 大輔	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」矢野忠 編集主幹 (文光堂)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる解剖(筋・支配神経)、生理学・経絡経穴学の復習、教科書を主体として授業を構成します。基本、授業の初めに前回授業の復習として小テストを実施。

科目の目標	症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理をできるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。
授業概要	症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回数	授業内容
1	臨床論ガイダンス、第2章 治療各論 19. 肩こり
2	第2章 治療各論 20. 頸肩腕痛
3	第2章 治療各論 21. 肩関節痛
4	第2章 治療各論 22. 上肢痛
5	第2章 治療各論 23. 腰下肢痛
6	第2章 治療各論 24. 膝痛
7	第2章 治療各論 スポーツ医学、外傷・障害
8	第2章 治療各論 25. 運動麻痺
9	第2章 治療各論 1. 頭痛
10	第2章 治療各論 2. 顔面痛、4. 歯痛
11	第2章 治療各論 3. 顔面麻痺
12	第2章 治療各論 8. めまい
13	第2章 治療各論 9. 耳鳴りと難聴
14	第2章 治療各論 5. 眼精疲労
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床評価実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	下 山 隆 朗	教員区分	実務教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「診断と手技がみえる①」 (メディックメディア) 「病気がみえるシリーズ」 (メディックメディア)
成績評価	実技試験、出席点 (1 回欠席－6 点・1 回遅刻・早退－2 点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ 1 回－4 点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験が 6 0 点未満の者、総合評価が 6 0 点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	授業に関連する項目の予習・復習 (解剖学・生理学・臨床医学総論・リハビリテーション医学) に努めること。 シラバス・資料を参照し、授業がスムーズに行える服装で臨むこと。

科目の目標	鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得する。 所見や評価項目を用い、患者の病態や経過を推察する能力を身につける。
授業概要	所見や評価項目の意義や方法を資料や教員のデモンストレーションにて理解し、学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理する。

実務経験	付属鍼灸院で臨床に携わる
実務経験と授業の関連	臨床で行っている評価方法を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、Ⅰ－① 感覚検査①
2	Ⅰ－① 感覚検査②
3	Ⅰ－① 反射検査①
4	Ⅰ－① 反射検査②
5	Ⅰ－① 反射検査③
6	Ⅰ－② 脳神経の検査①
7	Ⅰ－② 脳神経の検査②
8	Ⅰ－② 脳神経の検査③、髄膜刺激症状検査
9	Ⅰ－③ 徒手筋力検査①
1 0	Ⅰ－③ 徒手筋力検査②
1 1	Ⅰ－③ 徒手筋力検査③

1 2	総復習
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバックと評価
1 6	検査と評価のまとめ

科 目	臨床経穴実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王 曉明(医歯薬出版株式会社)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 総合評価が60点未満の者は再試験の評価とする。
留意事項	必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 十四経については、所属の経穴名と部位を復習しておくこと。 シラバスを参照し、取穴し易い服装で臨むこと。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 担当教員による局所解剖と取穴の説明・デモンストレーション、各自での触擦・取穴を行う。

実務経験	往診にて臨床を行う。
実務経験と授業の関連	臨床で得た触察の技術を授業に還元する。

日程

回 数	授業内容
1	足の少陽胆経①
2	足の少陽胆経②、足の厥陰肝経
3	要穴1
4	要穴2
5	要穴3
6	要穴4
7	要穴5
8	要穴6
9	要穴7
10	要穴8

1 1	要穴 9
1 2	要穴 1 0
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	触診触擦実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点 (1 回欠席－6 点・1 回遅刻・早退－2 点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ 1 回－4 点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が 6 0 点未満の者、あるいは総合点が 6 0 点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1 回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造 (骨、筋、靱帯、神経、血管) を必ず復習しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に触察および患者を想定した、触診 (触り方) を習得する。さらに、体格 (男女や筋の発達度合い、脂肪の量など) による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った触診の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	通電機器説明および物理療法の禁忌・適応について・前脛骨筋触擦
3	肩こりの診察および触擦：大・小菱形筋、僧帽筋(上部・中部)、肩甲挙筋
4	頸肩腕痛の診察および触擦①：頸椎棘突起および椎間関節
5	頸肩腕痛の診察および触擦②：頸椎横突起、前・中斜角筋、小胸筋、鎖骨下筋
6	肩関節痛の診察および触擦：肩甲骨、三角筋、棘上筋、棘下筋、大・小円筋、広背筋
7	肘痛の診察および触擦：上腕骨外側上顆、R-H ギャップ、総指伸筋、腕橈骨筋、 長・短頭側手根伸筋
8	腰部痛の診察および触擦：脊柱起立筋、多裂筋、腸腰筋、(腰方形筋)
9	下肢痛の診察および触擦：梨状筋、大腿二頭筋長頭、半腱様筋、下肢動脈触診
1 0	膝痛の診察および触擦： 大腿骨および脛骨内側・外側上顆、大腿四頭筋、大・長内転筋、膝窩筋、膝窩動脈
1 1	下腿痛の診察および触擦： 前・後距腓靱帯、踵腓靱帯、長・短腓骨筋、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋
1 2	頭痛の触診および触擦：浅側頭動脈、大耳介神経溝、頭板状筋、頭棘筋
1 3	定期試験
1 4	定期試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	鍼灸応用実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席ー6点・1回遅刻・早退ー2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回ー4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・<u>授業中</u>にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺鍼部位の構造 (骨、筋、靱帯、神経、血管) を必ず<u>復習</u>しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な刺鍼方法、顔面部刺鍼
2	鍼通電療法(EAT)の実際、前脛骨筋
3	肩こりの刺鍼：僧帽筋(上部・中部線維)、肩甲挙筋、菱形筋
4	頸椎症の刺鍼：頸部椎間関節
5	胸郭出口症候群の刺鍼：前・中斜角筋、小胸筋、鎖骨下筋
6	肩痛の刺鍼：三角筋、棘上筋、棘下筋、大・小円筋
7	肘痛の刺鍼：総指伸筋、腕橈骨筋、長・短橈側手根伸筋
8	腰部痛の刺鍼：脊柱起立筋、腸腰筋、多裂筋、(腰方形筋)
9	坐骨神経痛の刺鍼：梨状筋、坐骨神経
10	膝痛の刺鍼：大腿四頭筋、大・長内転筋、膝窩筋、膝窩動脈
11	下腿痛の刺鍼：長・短腓骨筋、腓腹筋(外側頭・内側頭)、ヒラメ筋
12	頭痛の刺鍼：浅側頭動脈、頭板状筋、頭棘筋、大・小後頭神経、大耳介神経
13	定期試験
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

実務経験	新宿医療専門学校付属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科 目	人間学Ⅱ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	教科書は使用しません。教員が單元ごとに資料を配布します。
参考書	指定参考書はありません。必要に応じ、参考文献・資料を紹介します。
成績評価	授業内小テスト 40%＋終講試験 60%（小テストを実施しない場合は終講試験のみで評価）
留意事項	時事問題を取り上げることが少なくありません。「授業内容」に記載されているトピックに関わるニュースに普段から触れておくよう心掛けてください。

科目の目標	「行為の善悪」の基準について、その根拠を求め、合理的な判断を得るのが倫理学です。この授業では、医療に関わる倫理的諸問題のうち、とりわけ近年注目されているトピックを選び、何が問題となっているのか、なぜ問題とされているのかを検討します。医療現場で生じる倫理的問題は、医療従事者や生命科学研究者だけでなく、すべての者に否応なしに関係してきます。関連情報の正確な理解に基づき、さまざまな考え方や立場を理解しつつ自ら主体的に考える姿勢を養成します。
授業概要	生命倫理学全体を俯瞰的に概括したのち、各論を個別に検証します。それぞれの問題の構造を分析し、現状を理解します。さらに、問題解決への道筋についても検討します。

日程

回 数	授業内容
1	§ 1. 生命倫理学とは何か——倫理学、生命倫理的問題、医療専門職と社会
2	§ 2. 生命倫理学、誕生の背景——1) 人体実験、2) 医療技術、3) 医師患者関係
3	§ 3-1. 人工妊娠中絶①——日本の現状、歴史的経緯、国際比較、関係法規
4	§ 3-2. 人工妊娠中絶②——生存権と選択権、優生思想と新優生思想、中絶と社会
5	§ 4-1. 生殖補助医療①——人工授精、体外受精、代理出産、望む子を得ること
6	§ 4-2. 生殖補助医療②——選択的出産、受精卵を用いた研究、技術が変える親子関係
7	§ 5-1. 遺伝子操作①——子をデザインする、遺伝子エンハンスメント、遺伝子を買う
8	§ 5-2. 遺伝子操作②——遺伝子組み換え作物・動物、食を通じた世界支配
9	§ 6-1. 脳死と臓器移植①——パーソン論、脳死と社会的死
10	§ 6-2. 脳死と臓器移植②——判定基準の問題、臓器移植の新要件、脳死は死か
11	§ 7-1. 安楽死・尊厳死・治療停止①——安楽死・尊厳死とは、事例、安楽死許容条件
12	§ 7-2. 安楽死・尊厳死・治療停止②——リビング・ウィルとDNAR、死の迎え方と社会
13	§ 8. 自律尊重・自己決定——社会の利益と個人の権利、自己決定権とその限界
14	§ 9. ケアという視点——ケアとキュア、社会と弱者の関わり
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説、授業総括

科 目	臨床医学総論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「生理学 第3版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「解剖学 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「診察と手技がみえる」	田邊政裕 編集	(メディックメディア)
成績評価	定期試験		
留意事項	基礎となる解剖学、生理学の復習や東洋医学臨床論と併せた学習を行ってください。		

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	患者が訴える症状の原因疾患は何か、病態生理を把握しながら学習する。

日程

回 数	授業内容
1	第8章 その他の診察
2	第7章 運動機能検査1
3	第7章 運動機能検査2
4	第9章 臨床検査法1
5	第9章 臨床検査法2
6	第9章 臨床検査法3
7	第11章 治療学
8	第10章 おもな症状の診察 頭痛～難聴
9	第10章 おもな症状の診察 発疹～腹痛
10	第10章 おもな症状の診察 のぼせ冷え～下痢
11	第10章 おもな症状の診察 肩こり～運動麻痺
12	第10章 おもな症状の診察 不眠～嚥下困難
13	第10章 おもな症状の診察 発熱～浮腫
14	第10章 おもな症状の診察 血痰咯血～意識障害
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	山 田 智	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「なるほどなっとく内科学」浅野嘉延 編集 (南山堂)
	「病気が見える シリーズ」 (メディックメディア)
	「標準生理学 第8版」 小澤滯司・福田康一郎 監修 (医学書院)
	「解剖学講義 第3版」 伊藤隆 原著 (南山堂)
成績評価	定期試験により評価します。
留意事項	各臓器(消化管、内分泌、代謝)の解剖学、生理学を復習してください。

科目の目標	解剖・生理を踏まえながら、代表的な疾患の病態生理の理解と把握、検査方法を学ぶ。
授業概要	配布資料と口述、スライドなどを用いて解説していきます。成績に反映しない小テストを各回実施して理解の進捗度を確認します。

日程

回 数	授業内容
1	消化管疾患①：口腔疾患、食道疾患
2	消化管疾患②：胃・十二指腸疾患 1
3	消化管疾患③：胃・十二指腸疾患 2
4	消化管疾患④：腸疾患 1
5	消化管疾患⑤：腸疾患 2、腹膜疾患
6	肝・胆・膵疾患①：肝臓疾患 1、消化器疾患確認小テスト
7	肝・胆・膵疾患②：肝臓疾患 2
8	肝・胆・膵疾患③：胆道疾患
9	肝・胆・膵疾患④：膵臓疾患
10	内分泌疾患①：下垂体疾患、甲状腺疾患、肝・胆・膵疾患確認小テスト
11	内分泌疾患②：副腎疾患
12	代謝・栄養疾患①：糖代謝、脂質代謝、内分泌疾患確認小テスト
13	代謝・栄養疾患②：尿酸代謝、その他の代謝異常
14	総まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」(メディックメディア) 「全部見える 脳・神経疾患」(成美堂出版) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学・生理学(免疫系、循環系、神経系、筋・運動系など)の基礎知識について復習し、不得意な領域をなるべく少なくしておく事。 病理学概論・臨床医学総論・臨床評価実習の範囲で扱う専門用語も同様に必要です。

科目の目標	神経系疾患の病態生理を把握し、症状や検査結果が類似する疾患を鑑別できる視点を養う事を旨とする。
授業概要	神経系の構造・機能の知識に基づき、各神経系疾患の概念(病理や疫学上の特徴)・症状(自覚症状・他覚所見など)・診断(検査方法・検査結果など)・治療(薬物投与や手術などの種類など)・経過予後(生命予後や後遺症の有無など)を学習する。授業状況を鑑みながら、進行速度を変化させる。

日程

回 数	授業内容
1	神経疾患総論：中枢神経系の解剖・生理学
2	筋疾患：重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋強直性筋ジストロフィー
3	運動ニューロン疾患：筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症
4	認知症性疾患：認知症(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管型認知症、ピック病)
5	感染性疾患：髄膜炎(ウイルス性髄膜炎(ポリオなど)、細菌性・結核性・真菌性髄膜炎)
6	基底核変性疾患：パーキンソン病、ハンチントン舞踏病、脳性小児麻痺、ウィルソン病
7	その他変性疾患：脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺、パーキンソニズム
8	脳・脊髄腫瘍①：脳腫瘍、神経膠腫、髄膜腫、転移性脳腫瘍
9	脳・脊髄腫瘍②：下垂体腺腫、神経鞘腫、脊髄腫瘍
10	脳血管疾患①：脳梗塞(脳血栓/脳塞栓)、一過性脳虚血発作

1 1	脳血管疾患②：脳出血、クモ膜下出血
1 2	末梢神経障害：圧迫性・絞扼性ニューロパシー、ベル麻痺、ラムゼーハント症候群
1 3	神経痛：三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛
1 4	機能性疾患：緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛
1 5	定期試験
1 6	解答と解説

科 目	リハビリテーション医学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	塚本 晃介	教員区分	一般教員

教科書	リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験で評価 6割以上を合格とする。
留意事項	臨床評価実習、臨床医学各論と合わせた学習を行い、予習・復習に勤しむこと。

科目の目標	リハビリテーションの概念と各疾患に対する治療方法を理解する。
授業概要	リハビリテーション医学について正しい知識を持ち、社会の変化や生活の価値観の変化に応じて進歩するリハビリテーションに対応できるように学習する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション A リハビリテーションと障害
2	B リハビリテーション医学と医療
3	C 障害の評価① (ROM、MMT、ADL 等)
4	C 障害の評価② (ブルンストロームステージ、心理評価等)
5	D 医学的リハビリテーション (理学療法)
6	D 医学的リハビリテーション (作業療法、言語聴覚療法 補助具、看護、ソーシャルワーク)
7	リハビリテーション総論まとめ 復習
8	各疾患のリハビリテーション (A 脳卒中 1)
9	各疾患のリハビリテーション (A 脳卒中 2) D 小児
10	各疾患のリハビリテーション (B 脊髄損傷)
11	各疾患のリハビリテーション (C 切断)
12	各疾患のリハビリテーション (E 骨関節疾患、F 関節リウマチ)
13	各疾患のリハビリテーション (G 末梢神経障害、H パーキンソン病 (I 呼吸器疾患、J 心疾患)
14	リハビリテーション各論まとめ 復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	東洋医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教 科 書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	要穴表は必ず覚えて授業に臨んで下さい。

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること。
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション/復習
2	悪心と嘔吐
3	月経異常
4	排尿障害/インポテンツ
5	肩こり/頸肩腕痛/肩関節痛
6	腰下肢痛
7	膝痛
8	運動麻痺
9	高血圧/低血圧
10	食欲不振/肥満
11	発熱/のぼせと冷え
12	不眠/疲労と倦怠感
13	発疹/小児の症状
14	古代刺法
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	藤野 大輔	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」矢野 忠 編集(文光堂) 「病気がみえるシリーズ」(メディックメディア)
成績評価	基本的に毎回、前回内容分の小テストを行う。総合評価60点未満の場合は再試験とする。 ただし、期末試験で60点未満の者も再試験とする。
留意事項	必ず授業の復習を行うこと。基本となる解剖や生理、経穴の復習をはじめ、これらが疾患に 結びついていることを理解すること。授業に関する質問は授業時間内に聞くこと。

科目の目標	症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理をできるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。
授業概要	症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回 数	授業内容
1	呼吸器系1(鼻閉・鼻汁)
2	呼吸器系2(咳嗽、喘息)
3	呼吸器系3(咳嗽、喘息続き)
4	疼痛(胸痛、腹痛)
5	婦人科系(月経異常)
6	泌尿器科系1(排尿障害)
7	泌尿器科系2(インポテンツ)
8	消化器系1(悪心・嘔吐、食欲不振、肥満)
9	消化器系2(便秘・下痢)
10	バイタル(高血圧症、低血圧症、発熱、のぼせと冷え)
11	不眠、疲労と倦怠
12	皮膚科系(脱毛症、痒み)
13	老年医学、小児の症状
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之・北園 実鈴	教員区分	一般教員

浅野 貴之

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「鍼灸学 基礎編」日中共同編集 (東洋学術出版社)
成績評価	定期試験にて評価する。 50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、北園先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	毎時限、内容が完結するため欠席をしないこと。過去の東洋医学の講義の上に知識を組み上げていくため、過去の資料やノートを見直しておくこと。また、確認が必要であれば資料やノートを持って受講すること。

科目の目標	1. 臓腑弁証において、各臓腑の病証を書き出すことができる。 2. 臓腑弁証と病因論(「新版 東洋医学概論 第2章」にて学習済)を結びつけ、症状を推測できる。 3. サブテキスト内のA指定(最重要項目)を理解し、それを書き出すことができる。 4. 「新版 東洋医学概論」第2章～第4章の重要事項を結びつけて説明することができる。
授業概要	1. 授業はプリント(サブテキスト)を用い、PCにてプレゼンテーション形式で説明する。 2. 必要に応じて、板書しながら説明していく。 3. 過去に行われた講義と弁証との関連付けをしながら講義を進めていく。

北園 実鈴

教科書	特になし
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「臨床不妊症学 第3版」 柴原浩章 編著 (中外医学社) 「高齢不妊診療ハンドブック」 森本義晴 著 (医学書院) 「月経らくらく講座」 松本清一 監修 (文光堂) 「臨床婦人科産科」 月刊誌 (医学書院)
成績評価	定期試験にて評価する。50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、浅野先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	各部位の構造と機能の予習を行なって授業に望むこと。

科目の目標	鍼灸臨床で遭遇しやすい整形外科疾患や内科疾患の病態と鍼灸治療について学ぶ。
授業概要	生殖器、肩、腰、などの局所解剖を理解する。 疾患の病態生理を学ぶことによって鍼灸治療の方法を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	東洋医学の捉え方① 臓腑学説と気血津液学説 (浅野)
2	婦人科疾患の病態と治療方針① (北園)
3	東洋医学の捉え方② 病因論 (浅野)
4	婦人科疾患の病態と治療方針② (北園)
5	東洋医学の捉え方③ 弁証論治、弁証の進め方 (浅野)
6	婦人科疾患の病態と治療方針③ (北園)
7	東洋医学の捉え方④ 八綱弁証 (浅野)
8	腰痛疾患の病態と鍼灸治療① (北園)
9	東洋医学の捉え方⑤ 気血津液弁証 (浅野)
10	腰痛疾患の病態と治療方針② (北園)
11	東洋医学の捉え方⑥ 臓腑弁証 (浅野)
12	上肢の疾患の病態と治療方針① (北園)
13	東洋医学の捉え方⑦ 臓腑兼病病証 (浅野)
14	上肢の疾患の病態と治療方針② (北園)
15	定期試験 (浅野・北園)
16	まとめ (浅野・北園)

科 目	社会鍼灸学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教科書	「社会あはき学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜紹介する。
成績評価	定期試験による。
留意事項	鍼灸師と社会との関係において問題意識を持つこと。

科目の目標	鍼灸師の役割を把握し、社会の中でどのように活動し、情報を発信するかを学ぶ。
授業概要	現代を生きる鍼灸師として何が必要なのかを把握する。それを研究・発表する場で、適切に相手へ発信することを学んでいく。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	鍼灸と社会①
3	鍼灸と社会②
4	鍼灸と社会③
5	鍼灸と社会④
6	鍼灸師を目指すものとして考えること①
7	鍼灸師を目指すものとして考えること②
8	鍼灸と社会⑤
9	鍼灸師と現代社会・医療との関わり①
10	鍼灸と社会⑥
11	鍼灸と社会⑦
12	鍼灸と社会⑧
13	鍼灸師と現代社会・医療との関わり②
14	鍼灸師と現代社会・医療との関わり③
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説 総説

科 目	臨床評価実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「写真で学ぶ整形外科テスト法」ジョセフJ・シプリアーノ 著 (医道の日本社) 「標準整形外科学 第13版」 中村利孝・松野丈夫 監修 (医学書院)
成績評価	実技試験に欠席点(欠席－6点、遅刻・早退－2点)、授業態度(不適切な身だしなみ－4点)を含めた評価とする。
留意事項	検査法は相手の身体に負荷や痛みを加えるものなので、真剣に取り組むこと。 解剖学・運動学・整形外科の基礎知識が必須のため、必ず復習をしておくこと。 部位に応じて、ハーフパンツなど動きやすい服装で臨むこと。

科目の目標	臨床の場において、鍼灸師が行う事が出来る検査や評価の方法を理解し、病態や状態を推測する能力を身につける。 身体各部位の診察・評価方法を習得し、適切に徒手検査が行えるようにする。
授業概要	検査と疾患の関係を理解しながら手技とともに臨床推論ができる技術と知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 肘関節・手関節部の診察・徒手検査・評価方法
2	膝関節の診察・徒手検査・評価方法①
3	膝関節の診察・徒手検査・評価方法②
4	膝関節・足関節の診察・徒手検査・評価方法③
5	仙腸関節の診察・徒手検査・評価方法
6	股関節の診察・徒手検査・評価方法
7	腰部の診察・徒手検査・評価方法①
8	腰部の診察・徒手検査・評価方法②
9	頸部の診察・徒手検査・評価方法
10	肩関節の診察・徒手検査・評価方法①

1 1	肩関節の診察・徒手検査・評価方法②
1 2	胸部の診察・徒手検査・評価方法
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験のフィードバック
1 6	検査法のまとめ

科 目	触診触察実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席－6点・1回遅刻・早退－2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回－4点) を総合的に評価する。
留意事項	・体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺激できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺激部位の構造 (骨、筋、靱帯、神経、血管) を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ・Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に触察および診察、患者を想定した、触診 (触り方) を習得する。さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・前期内容の復習
2	顔面神経麻痺に関わる組織の触診および触擦 (現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照)
3	鼻閉・鼻汁に関わる組織の触診および触擦 (現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	咳嗽・喘息に関わる組織の触診および触擦 (現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	消化器に関わる組織の触診および触擦① (現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	消化器に関わる組織の触診および触擦② (現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

7	婦人科に関わる組織の触診および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
8	泌尿器に関わる組織の触診および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
9	血圧異常に関わる組織の触診および触察（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
10	不眠・疲労・倦怠感に関わる組織の触診および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
11	胸痛に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
12	眼精疲労に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
13	スポーツ医学に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	灸応用実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	特になし
成績評価	実技試験・出席状況・身だしなみを総合して評価する。
留意事項	医療従事者としてふさわしい服装で参加すること（ふさわしくない身だしなみ－4点）。 遅刻・欠席をしないこと（欠席－6点、遅刻－2点）。 感受性の差異に留意し、参加にあたっては体調管理に努めること。 火気の取り扱いに注意し、適切に器具を扱うこと。指示以外のことは行わないこと。

科目の目標	灸の基礎実習で学習した事を基に、基礎技術力のさらなる向上を目指す。 臨床において使用頻度の高い身体部位に対する施術方法を交え、担当教員により各部位のデモンストレーションを行い指導する。
授業概要	様々な灸法を学び、治療に使用することのできる技術を習得する。

実務経験	付属施術所で施術
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス・紙上施灸
2	対人施灸（透熱灸 復習）
3	対人施灸（温筒灸）
4	対人施灸（知熱灸）
5	対人施灸（隔物灸）
6	対人施灸（棒灸・箱灸）
7	対人施灸（紫雲膏灸）
8	臨床推論・対人施灸（腰部への灸①）
9	対人施灸（腰部への灸②）
10	対人施灸（腹部への灸）

1 1	対人施灸（肩背部への灸）
1 2	対人施灸（四肢への灸）
1 3	定期試験
1 4	定期試験
1 5	フィードバック・総復習
1 6	総復習

科 目	鍼灸応用実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。
留意事項	・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺鍼部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ・Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼灸の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・前期内容の復習
2	顔面神経麻痺に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照)
3	鼻閉・鼻汁に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	咳嗽・喘息に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	消化器疾患に関わる組織の刺鍼①(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	消化器疾患に関わる組織の刺鍼②(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

7	婦人科疾患に関わる組織の刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
8	泌尿器疾患に関わる組織の刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
9	血圧異常に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
10	自律神経調整に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
11	胸痛に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
12	眼精疲労に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
13	スポーツ医学に関わる組織へ刺激（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習 (2コマ1日程)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	内藤 玄吾 他	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

日程【後期】

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	

科 目	臨床実習 (2コマ1日程)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	渡辺 悠美 他	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと。

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる。
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する。 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ。

日程【後期】

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	

科 目	解剖学Ⅶ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	配布プリント
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に起こない基礎力と応用力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	解剖学総復習 1
2	解剖学総復習 2
3	解剖学総復習 3
4	解剖学総復習 4
5	解剖学総復習 5
6	解剖学総復習 6
7	解剖学総復習 7
8	解剖学総復習 8
9	解剖学総復習 9
10	解剖学総復習 10
11	解剖学総復習 11
12	解剖学総復習 12
13	解剖学総復習 13
14	解剖学総復習 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	生理学 V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 3 版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	適宜紹介する
成績評価	定期試験
留意事項	生理学の基礎知識の確認と苦手なポイントを再確認する

科目の目標	生理学やその他の科目もリンクして学習を効率良く行う
授業概要	生理学 I ～IVの内容を総復習する

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎の復習
2	血液循環の復習①
3	血液循環の復習②
4	生体防御機構の復習
5	呼吸の復習
6	消化と吸収の復習
7	代謝の復習
8	体温の復習
9	排泄の復習①
1 0	排泄の復習②
1 1	内分泌の復習①
1 2	内分泌の復習②
1 3	神経系の復習①
1 4	神経系の復習②
1 5	定期試験
1 6	解答と解説

科 目	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	渡辺 悠美	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「公衆衛生がみえる 2020-2021」安藤 雄一ら監修(メディックメディア)
成績評価	小テスト3割, 定期試験7割の総合評価とする。 ただし, 定期試験で6割かつ総合評価で6割を超えない場合は再試験となる。
留意事項	暗記する項目も多いため, 復習を必ず行うこと。 不明点がある場合は, その都度質問すること。

科目の目標	衛生学・公衆衛生学とは何かを理解し, 社会で問題となっている事柄について考える。
授業概要	授業はパワーポイントと資料を用いて行う。 適宜, 小テストを行う。

日程

回 数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学とは
2	健康
3	環境と健康1
4	環境と健康2
5	ライフスタイルと健康
6	産業保健
7	精神保健
8	母子保健
9	疫学
10	保健統計
11	消毒法
12	感染症とその対策
13	成人・高齢者保健
14	総復習
15	定期試験
16	解説

科 目	臨床医学各論Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	山 田 智	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「なるほどなっとく内科学」浅野嘉延 編集 (南山堂)
	「病気が見える シリーズ」 (メディックメディア)
	「標準生理学 第8版」 小澤澗司・福田康一郎 監修 (医学書院)
	「解剖学講義 第3版」 伊藤隆 原著 (南山堂)
成績評価	定期試験により評価します。
留意事項	各臓器(消化管、内分泌、代謝)の解剖学、生理学を復習してください。

科目の目標	解剖・生理を踏まえながら、代表的な疾患の病態生理の理解と把握、検査方法を学ぶ。
授業概要	配布資料と口述、画像や模式図などを用いて解説していきます。成績に反映しない小テストを各回実施して理解の進捗度を確認します。

日程

回 数	授業内容
1	腎・泌尿器疾患① 原発性糸球体腎炎
2	腎・泌尿器疾患② 腎不全、感染症
3	腎・泌尿器疾患③ 腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患
4	リウマチ性疾患・膠原病疾患① リウマチ性疾患、膠原病
5	リウマチ性疾患・膠原病疾患② 膠原病
6	その他領域① 小児疾患
7	その他領域② 一般外科、麻酔科
8	その他領域③ 婦人科疾患
9	その他領域④ 皮膚科疾患
10	その他領域⑤ 眼科疾患
11	その他領域⑥ 耳鼻科疾患
12	その他領域⑦ 精神科疾患
13	その他領域⑧ 心療内科
14	総まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床医学総合論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント		
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
成績評価	定期試験		
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。		

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、臨床医学総合論①
2	臨床医学総合論②
3	臨床医学総合論③
4	臨床医学総合論④
5	臨床医学総合論⑤
6	臨床医学総合論⑥
7	臨床医学総合論⑦
8	臨床医学総合論⑧
9	臨床医学総合論⑨
1 0	臨床医学総合論⑩
1 1	臨床医学総合論⑪
1 2	臨床医学総合論⑫
1 3	臨床医学総合論⑬
1 4	臨床医学総合論⑭
1 5	定期試験
1 6	解答と解説、授業総括

科 目	経絡経穴概論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 適宜プリントを配布
参 考 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験8割、暗唱2割(指定された期日までに行うこと)による総合評価 定期試験もしくは総合評価が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	十四経について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	十四経書き取り①
2	十四経書き取り②
3	流注・骨度法
4	取穴部位・要穴①
5	取穴部位・要穴②
6	取穴部位・要穴③
7	取穴部位・要穴④
8	取穴部位・要穴⑤
9	取穴部位・要穴⑥
10	取穴部位・要穴⑦
11	取穴部位・要穴⑧
12	奇経・奇穴など
13	頸部・顔面・頭部：取穴部位
14	取穴部位のまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	東洋医学概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。

科目の目標	東洋医学概の知識と応用力の習得を目標とする。
授業概要	東洋医学概論Ⅰ、Ⅱの復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス 陰陽・五行論
2	精・気・血・津液と神の生理・病理
3	八綱弁証
4	肝・胆の生理・病理
5	心・小腸の生理・病理
6	脾・胃の生理・病理
7	肺・大腸の生理・病理
8	腎・膀胱の生理・病理
9	経脈病証
10	東洋医学的診察法と証の立て方 (難経六十九難等)
11	東洋医学的診察法と証の立て方 (鍼灸の補瀉・古代刺法等)
12	東洋医学的診察法と証の立て方 (その他)
13	総復習①
14	総復習②
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	各授業内で適宜紹介する
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	1テーマごとに連続性をもって講義を行うので、欠席をしないようにすること。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

実務経験	附属鍼灸院で施術
実務経験と授業の関連	鍼灸臨床で得た知識を授業へ活かす。

日程

回 数	授業内容
1	経絡リンパ治療①
2	経絡リンパ治療②
3	経絡リンパ治療③
4	経絡リンパ治療④
5	積聚治療①
6	積聚治療②
7	積聚治療③
8	積聚治療④
9	中医学治療①
10	中医学治療②
11	中医学治療③
12	中医学治療④
13	現代医学治療①
14	現代医学治療②
15	現代医学治療③
16	現代医学治療④

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ（Bクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	鍼灸学科教員	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	各授業内で適宜紹介する
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	1 テーマごとに連続性をもって講義を行うので、欠席をしないようにすること。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

実務経験	附属鍼灸院で施術
実務経験と授業の関連	鍼灸臨床で得た知識を授業へ活かす。

日程

回 数	授業内容
1	積聚治療①
2	積聚治療②
3	積聚治療③
4	積聚治療④
5	経絡リンパ治療①
6	経絡リンパ治療②
7	経絡リンパ治療③
8	経絡リンパ治療④
9	現代医学治療①
1 0	現代医学治療②
1 1	現代医学治療③
1 2	現代医学治療④
1 3	中医学治療①
1 4	中医学治療②
1 5	中医学治療③
1 6	中医学治療④

科 目	薬学概論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	根本 香代・邱 紅梅・鍼灸学科教員	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「女性診療で使えるヌーベル漢方処方ノート」武田卓 著（メディカ出版）
成績評価	最終日の確認試験の結果を採点
留意事項	基礎となる生理学や東洋医学を復習しておくこと。

科目の目標	生理学・東洋医学臨床論等の知識を活かし、鎮痛薬など一般的に服用されている薬を中心とした薬理や漢方薬の基礎を理解して、患者とのコミュニケーションの幅を広げることを目的とする。患者が処方されている薬の概要を把握し、その効果をより高める治療ができる臨床家を育成する。
授業概要	現代的な薬学では症状別に、漢薬では証や生薬別に知識を深めていく。

日程

回 数	授業内容
1	薬理学の基礎知識
2	解熱・鎮痛・抗炎症薬
3	風邪薬
4	抗アレルギー薬
5	循環器系に作用する薬物
6	消化器系に作用する薬物
7	神経系に作用する薬物
8	確認試験
9	漢方薬総論
10	風邪・インフルエンザに対する漢方薬
11	肩こり・首こり・腰痛に対する漢方薬
12	冷えに対する漢方薬
13	不眠・不安・リラックスに対する漢方薬
14	疲労・体力低下に対する漢方薬
15	定期試験
16	フィードバック，加齢による不調・更年期・妊活に対する漢方薬

科 目	治効理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はりきゅう理論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「はりきゅう理論 改訂版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「リハビリテーション医学 第4版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はり師、きゅう師、あんま・指圧・マッサージ師のための痛み学習テキスト」 (公社)東洋療法研修試験財団 ※ 他、適宜学術論文を参照
参 考 書	「はりきゅう実技＜基礎編＞」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	鍼灸領域の学術論文を基とした学習範囲なので、基礎医学(生理学領域のうち、とくに神経系)の再確認をしておく事。

科目の目標	鍼灸は科学的根拠に乏しい治療と考える旧来の医学知識は近年刷新され、科学的視点による実験から得られた知見による、治効理論が構築されている。ごく近年では、体内での情報伝達や化学反応が技術的に可視化された事により、鍼灸領域においても新たな観点が加わりつつある。 本科目は、鍼灸治療に関わる基礎知識・作用機序を学習し、臨床において根拠ある施術ができるようになることを目標とする。
授業概要	鍼灸が物理的に影響を及ぼす皮膚組織・筋組織・結合組織の現代医学的な理解を進める。組織損傷時にみられる変化を学習し、鍼灸施術で生じる組織変化への理解を進める。 鍼灸刺激によって生じる神経系・内分泌系・免疫系の反応を学習する。 基本となる教科書範囲は、「はりきゅう理論」第9～11章ですが、「はりきゅう理論改訂版」の内容も配布テキストで対応していきます。

日程

回 数	授業内容
1	神経系の生理解剖 1
2	神経系の生理解剖 2、内分泌系の生理解剖 1
3	内分泌系の生理解剖 2、免疫系の生理解剖
4	第9章：鍼灸治効の基礎 1…痛みの定義と分類、温度覚の性質と鍼灸との関連
5	第9章：鍼灸治効の基礎 2…触圧覚の性質と鍼灸との関連
6	第9章：鍼灸治効の基礎 3…運動器の性質と鍼灸との関連
7	第9章：鍼灸治効の基礎 4…鍼鎮痛 1
8	第9章：鍼灸治効の基礎 5…鍼鎮痛 2
9	第9章：鍼灸治効の基礎 7…鍼灸施術の刺激と反応

1 0	第 1 0 章：鍼灸療法の一般治効理論 1 …鍼灸施術による自律神経反応
1 1	第 1 0 章：鍼灸療法の一般治効理論 2 …鍼灸施術による生体防御機構の反応
1 2	第 1 0 章：鍼灸療法の一般治効理論 3 …鍼灸施術と神経・内分泌・免疫系の相互作用
1 3	第 1 0 章：鍼灸療法の一般治効理論 4 …鍼灸治効機序に関与する分子生理学、薬理学総括
1 4	第 1 1 章：関連学説
1 5	定期試験
1 6	解答と解説、授業総括

科 目	臨床応用実習Ⅰ (前期 B クラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし。テーマに沿ったテキストにて配布。
参 考 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「ネッター 解剖学アトラス」 F.H.Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院)
成績評価	出席 (1回欠席ー6点・1回遅刻ー2点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造 (骨、筋、靱帯、神経、血管) を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺激技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学 (解剖学、生理学) と実技実習 (鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼灸応用実習Ⅰ・Ⅱ) の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

実務経験	講師歴22年 臨床歴22年 鍼灸、手技療法 (あん摩・マッサージ・指圧・骨格矯正など)
実務経験と授業の関連	臨床においては患者様の需要と、我々施術側の供給の一致、何よりも適切で安全な施術が重要になります。2年間の基礎と、実務に応用できる内容の授業を実務経験のもとに行います。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション (鍼について、灸について)、刺激 (基礎)、リスクマネジメント…安全に刺激するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方、体幹部 (背部) 刺激法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ

7	下肢帯①(骨盤, 股関節) 刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤, 股関節, 下腿) 刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
1 0	局所治療②膝刺鍼法
1 1	全身調整～後療法①
1 2	全身調整～後療法②
1 3	症状に応じた施術, 組み立て
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床応用実習Ⅱ (前期 Aクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	橋本 巖	教員区分	実務教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席(1回欠席－6点・1回遅刻－2点)、相応しくない身だしなみ(－4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上をはかる。特に、経絡病証を考慮した治療を行うために必須な経絡流注の把握や基本的な切診技術、要穴の取穴と適切な刺激法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

実務経験	講師歴16年、臨床歴25年、鍼灸学修士(伝統鍼灸学)
実務経験と授業の関連	臨床においては適切で安全な施術が重要です。2年間の基礎を基に、自ら考える基本的な概念、技術と本質的な応用をもって臨床に臨む姿勢を提供します。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について、診察法概論(切診)、刺激の基礎(姿勢)
2	「肺経」流注と経絡病証・脈診(右寸口)と切経・要穴と背部腧穴刺激、刺激の基礎(押手)
3	「肝虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
4	「腎虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
5	「脾虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
6	「肺虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
7	「脾経」流注と経絡病証・脈診(右関上)と切経・要穴と背部腧穴刺激、刺激の基礎(刺手)
8	「心経」流注と経絡病証・脈診(左寸口)と切経・要穴と背部腧穴刺激、刺激の基礎(弾入)
9	「腎経」流注と経絡病証・脈診(左尺中)と切経・要穴と背部腧穴刺激、刺激の応用(旋撚)

1 0	「心包経」流注と経絡病証・脈診（右尺中）と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用（雀啄）
1 1	「肝経」流注と経絡病証・脈診（左関上）と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用（催気）
1 2	体質別治療
1 3	体質別治療
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	浅野 貴之 他	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 外部の病院や鍼灸院で実習を行い、知見を深める

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	

科 目	総合鍼灸実習（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	（美 容 鍼）北園 実鈴, [岡本 真理] （スポーツ鍼）島田 正寿	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	適宜授業内で紹介する。
成績評価	美容鍼の評価、スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算（100点満点）を総合評価点とする。
留意事項	応用実技なので、基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。

科目の目標	疾患の治療だけでなく、様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど、時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。
授業概要	美容を目的としたフェイスクアや、各競技で障害を起こしやすい部位や、臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。

実務経験	北園 実鈴：付属施術所で施術 島田 正寿：鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	美容鍼のガイダンス 皮膚の構造（北園）
2	表情筋ならびに咀嚼筋の刺鍼（北園）
3	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅰ（北園）
4	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅱ（北園）
5	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅲ（北園）
6	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅳ（北園）
7	立体造顔美容に基づいた実技試験（北園）
8	総括と総評 上級のデモンストレーション（北園）
9	スポーツにおける上半身の障害と治療1（島田）
10	スポーツにおける上半身の障害と治療2（島田）

1 1	スポーツにおける上半身の障害と治療 3（島田）
1 2	スポーツにおける下半身の障害と治療 1（島田）
1 3	スポーツにおける下半身の障害と治療 2（島田）
1 4	スポーツにおける下半身の障害と治療 3（島田）
1 5	実技試験（島田）
1 6	成績評価、フィードバック（島田）

科 目	総合鍼灸実習（Bクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	（スポーツ鍼）島田 正寿 （美容鍼）北園 実鈴, [岡本 真理]	教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	適宜授業内で紹介する。
成績評価	美容鍼の評価、スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算（100点満点）を総合評価点とする。
留意事項	応用実技なので、基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。

科目の目標	疾患の治療だけでなく、様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど、時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。
授業概要	美容を目的としたフェイスクアや、各競技で障害を起こしやすい部位や、臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。

実務経験	島田 正寿：鍼灸院を開業 北園 実鈴：付属施術所で施術
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	スポーツにおける上半身の障害と治療1（島田）
2	スポーツにおける上半身の障害と治療2（島田）
3	スポーツにおける上半身の障害と治療3（島田）
4	スポーツにおける下半身の障害と治療1（島田）
5	スポーツにおける下半身の障害と治療2（島田）
6	スポーツにおける下半身の障害と治療3（島田）
7	実技試験（島田）
8	成績評価、フィードバック（島田）
9	美容鍼のガイダンス 皮膚の構造（北園）
10	表情筋ならびに咀嚼筋の刺鍼（北園）

1 1	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅰ（北園）
1 2	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅱ（北園）
1 3	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅲ（北園）
1 4	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅳ（北園）
1 5	立体造顔美容に基づいた実技試験（北園）
1 6	総括と総評 上級のデモンストレーション（北園）

科 目	臨床応用実習Ⅰ (前期 Bクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	特になし。テーマに沿ったテキストにて配布。
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「ネッター 解剖学アトラス」 F.H.Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院)
成績評価	出席(1回欠席-6点・1回遅刻-2点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺激技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼灸応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション(鍼について、灸について)、刺激(基礎)、リスクマネジメント…安全に刺激するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方、体幹部(背部)刺激法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ

7	下肢帯①(骨盤, 股関節)刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤, 股関節, 下腿)刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
10	局所治療②膝刺鍼法
11	全身調整～後療法①
12	全身調整～後療法②
13	症状に応じた施術, 組み立て
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床応用実習Ⅱ (前期 Aクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	橋本 巖	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席(1回欠席－6点・1回遅刻－2点)、相応しくない身だしなみ(－4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上をはかる。特に、経絡病証を考慮した治療を行うために必要な経絡流注の把握や基本的な切診技術、要穴の取穴と適切な刺激法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について、診察法概論(切診)、刺激の基礎(姿勢)
2	「肺経」流注と経絡病証・脈診(右寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の基礎(押手)
3	「肝虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
4	「腎虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
5	「脾虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
6	「肺虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
7	「脾経」流注と経絡病証・脈診(右関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の基礎(刺手)
8	「心経」流注と経絡病証・脈診(左寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の基礎(弾入)
9	「腎経」流注と経絡病証・脈診(左尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の応用(旋擦)
10	「心包経」流注と経絡病証・脈診(右尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の応用(雀啄)
11	「肝経」流注と経絡病証・脈診(左関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激、刺激の応用(催気)
12	体質別治療
13	体質別治療

1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床実習 (A クラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	渡辺 悠美 他	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	適宜紹介
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場に相応しい服装, 態度で臨むこと.

科目の目標	基礎医学に基づき, 施術所来院患者に対し, 的確な治療を体系立てて行えるように学習する. 治療の意義や目的を理解し, 学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する.
授業概要	実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める. 1年次、2年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する.

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務.
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる.

日程

回 数	授業内容
1	治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	評価、治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など

科 目	臨床実習 (Bクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	内藤 玄吾 他	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	適宜紹介
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場に相応しい服装, 態度で臨むこと.

科目の目標	基礎医学に基づき, 施術所来院患者に対し, 的確な治療を体系立てて行えるように学習する. 治療の意義や目的を理解し, 学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する.
授業概要	実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める. 1年次、2年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する.

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務.
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる.

日程

回 数	授業内容
1	治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	評価、治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など

科 目	総合実践実習 (テーピング・アロマ) (Aクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	前窪 美香・割田 萌	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「アロマコーディネーター講座」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会) 「Essential oil Guide book」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会)
成績評価	テーピングの評価, アロマの評価をそれぞれ50点満点としてその合算 (100点満点) を総合評価点とする.
留意事項	欠席せず取り組むこと.

科目の目標	臨床での治療の幅を広げるため, テーピング技術とアロマの知識を習得する.
授業概要	テーピング・アロマの基礎知識の学習, テーピング・アロマトリートメントの実践.

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, アロマの基礎知識 1
2	アロマの基礎知識 2, クラフト実習 1
3	アロマの基礎知識 3, クラフト実習 2
4	アロマの基礎知識 4, クラフト実習 3
5	アロマの基礎知識 5, クラフト実習 4
6	アロマの基礎知識 6, クラフト実習 5
7	アロマの基礎知識 7, クラフト実習 6
8	総復習
9	アロマ試験
10	フィードバック

1 1	テーピングの基礎知識, 足関節のテーピング 1
1 2	足関節のテーピング 2
1 3	膝関節のテーピング 1
1 4	膝関節のテーピング 2
1 5	肘関節のテーピング
1 6	テーピング試験

科 目	総合実践実習 (テーピング・アロマ) (Bクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	前窪 美香・割田 萌	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「アロマコーディネーター講座」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会) 「Essential oil Guide book」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会)
成績評価	テーピングの評価, アロマの評価をそれぞれ50点満点としてその合算(100点満点)を総合評価点とする。
留意事項	欠席せず取り組むこと。

科目の目標	臨床での治療の幅を広げるため, テーピング技術とアロマの知識を習得する。
授業概要	テーピング・アロマの基礎知識の学習, テーピング・アロマトリートメントの実践。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, アロマの基礎知識1
2	アロマの基礎知識2, クラフト実習1
3	アロマの基礎知識3, クラフト実習2
4	アロマの基礎知識4, クラフト実習3
5	テーピングの基礎知識, 足関節のテーピング1
6	足関節のテーピング2
7	膝関節のテーピング1
8	膝関節のテーピング2
9	肘関節のテーピング
10	テーピング試験

1 1	アロマの基礎知識 5, クラフト実習 4
1 2	アロマの基礎知識 6, クラフト実習 5
1 3	アロマの基礎知識 7, クラフト実習 6
1 4	総復習
1 5	アロマ試験
1 6	フィードバック

科 目	基礎力重点コース (総合解剖演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	特になし.配布資料で実施する.
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと. 復習を必ず行い,記憶すること. 鍼灸師にとって必要な解剖学の知識を確認すること.

科目の目標	解剖学の基礎力を固め,考える力を養う.
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う.

日程

回 数	授業内容
1	総合解剖演習 1
2	総合解剖演習 2
3	総合解剖演習 3
4	総合解剖演習 4
5	総合解剖演習 5
6	総合解剖演習 6
7	総合解剖演習 7
8	総合解剖演習 8
9	総合解剖演習 9
10	総合解剖演習 10
11	総合解剖演習 11
12	総合解剖演習 12
13	総合解剖演習 13
14	総合解剖演習 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合生理・病理演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	本 多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア) 「標準生理学」(医学書院) 「標準病理学」(医学書院) 他
成績評価	定期試験により評価。
留意事項	専門用語の位置づけ, 各用語間の関連付けや, 各用語の類似点・相違点の再確認を行う。 用語の理解が足りない点については授業時間以上の時間を割いて学習すること。

科目の目標	教育目標：生理学, 病理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標：生理学, 病理学教科書にある専門用語について概ね解説ができる。
授業概要	教科書について, 印象付けを強くしておくべき内容の再確認を中心とする。 オンラインを併用するため疑問点は登校時に担当教員へ確認をすること。

日程

回 数	授業内容
1	神経の復習 1
2	神経の復習 2
3	神経の復習 3
4	神経の復習 4
5	筋の復習 1
6	筋の復習 2
7	運動の復習 1
8	運動の復習 2
9	感覚の復習 1
10	感覚の復習 2
11	病理学の復習 1 (病因, 循環障害)
12	病理学の復習 2 (退行性病変, 進行性病変)
13	病理学の復習 3 (炎症, 腫瘍)
14	病理学の復習 4 (免疫異常, 先天性病変)
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合衛生・リハビリ演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし。配布資料にて実施。		
参 考 書	「医療概論」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「関係法規 第7版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「衛生学・公衆衛生学 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「リハビリテーション医学 第4版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
成績評価	定期試験にて評価		
留意事項	問題点を見つけ出すこと。		

科目の目標	社会に関連のある公衆衛生学・リハビリテーション学を総合的に学習する。
授業概要	現代社会と公衆衛生の関連・現代社会のリハビリテーションを様々な事例から関連付けていく。

日程

回 数	授業内容
1	現代社会と鍼灸 1
2	現代社会と鍼灸 2
3	現代社会と鍼灸 3
4	リハビリテーションと鍼灸 1
5	リハビリテーションと鍼灸 2
6	リハビリテーションと鍼灸 3
7	リハビリテーションと鍼灸 4
8	リハビリテーションと鍼灸 5
9	リハビリテーションと鍼灸 6
10	リハビリテーションと鍼灸 7
11	リハビリテーションと鍼灸 8
12	リハビリテーションと鍼灸 9
13	リハビリテーションと鍼灸 10
14	リハビリテーションと鍼灸 11
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎力重点コース (総合臨総演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合臨床医学総論 1
2	総合臨床医学総論 2
3	総合臨床医学総論 3
4	総合臨床医学総論 4
5	総合臨床医学総論 5
6	総合臨床医学総論 6
7	総合臨床医学総論 7
8	総合臨床医学総論 8
9	総合臨床医学総論 9
10	総合臨床医学総論 10
11	総合臨床医学総論 11
12	総合臨床医学総論 12
13	総合臨床医学総論 13
14	総合臨床医学総論 14
15	定期試験・まとめ
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合臨各演習Ⅰ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	関連教材から適宜紹介
成績評価	定期試験
留意事項	総合的な学習となるので、必要と思われる分野の事前学習を行う事。

科目の目標	上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識し、問題解決能力の向上を目指す。疾患名から疫学・疾病特有の分類・自覚的他覚的症状、検査法と検査結果、治療や予後経過について覚えたものを、正確に思い出す事ができる。
授業概要	臨床医学分野と基礎医学分野の医学用語の運用に慣れる事や症例の読解訓練を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な臨床医学各論の演習 1
2	総合的な臨床医学各論の演習 2
3	総合的な臨床医学各論の演習 3
4	総合的な臨床医学各論の演習 4
5	総合的な臨床医学各論の演習 5
6	総合的な臨床医学各論の演習 6
7	総合的な臨床医学各論の演習 7
8	総合的な臨床医学各論の演習 8
9	総合的な臨床医学各論の演習 9
10	総合的な臨床医学各論の演習 10

1 1	総合的な臨床医学各論の演習 1 1
1 2	総合的な臨床医学各論の演習 1 2
1 3	総合的な臨床医学各論の演習 1 3
1 4	総括
1 5	定期試験
1 6	解答と解説, 授業総括

科 目	基礎力重点コース (総合臨各演習Ⅱ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし. 配布資料にて実施.
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと. 必ず復習を行い記憶すること.

科目の目標	今までに学んだ臨床医学の疾患をより深く学んでいく.
授業概要	一つ一つの疾患の特徴をより深く知ることにより, なぜ病気が発症し, なぜこの症状が出るのかを暗記ではなく理解できるようにしていく.

日程

回 数	授業内容
1	感染症 1
2	感染症 2
3	消化器疾患 1
4	消化器疾患 2
5	肝・胆・膵疾患 1
6	肝・胆・膵疾患 2, 呼吸器疾患 1
7	呼吸器疾患 2
8	腎・尿器疾患
9	内分泌疾患
10	代謝・栄養疾患
11	循環器疾患 1
12	循環器疾患 2
13	血液・造血疾患
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	基礎力重点コース (総合臨床医学演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験にて評価
留意事項	復習を必ず行い、記銘・保存・想起の訓練を行ってください。

科目の目標	鍼灸師に必要とされる現代医学知識の再確認と教科書の順番に捕らわれない練度の向上を目指します。
授業概要	臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて習得した知識のすり合わせを行う。

日程

回 数	授業内容
1	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用①
2	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用②
3	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用③
4	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用④
5	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑤
6	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑥
7	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑦
8	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑧
9	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑨
10	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑩
11	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑪
12	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑫
13	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑬
14	総括
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合経穴演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「経絡・ツボの教科書」兵頭明 監修 (新星出版社) 「東洋医学の教科書」平馬直樹ら 監修 (ナツメ社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
成績評価	定期試験8割, 暗唱2割 (指定された期日までに行うこと) による総合評価. 総合評価ないし定期試験が6割未満の者は再試験とする.
留意事項	復習を欠かさず行うこと. 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと.

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め, 考える力を養う.
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う.

日程

回 数	授業内容
1	総合経穴演習 1
2	総合経穴演習 2
3	総合経穴演習 3
4	総合経穴演習 4
5	総合経穴演習 5
6	総合経穴演習 6
7	総合経穴演習 7
8	総合経穴演習 8
9	総合経穴演習 9
10	総合経穴演習 10
11	総合経穴演習 11
12	総合経穴演習 12
13	総合経穴演習 13
14	総合経穴演習 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合東洋医学演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	特になし
成績評価	定期試験にて評価
留意事項	東洋医学概論をしっかり復習すること。

科目の目標	東洋医学概論の応用を目標とする。
授業概要	東洋医学概論の総まとめ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 総合東洋医学演習 1
2	総合東洋医学演習 2
3	総合東洋医学演習 3
4	総合東洋医学演習 4
5	総合東洋医学演習 5
6	総合東洋医学演習 6
7	総合東洋医学演習 7
8	総合東洋医学演習 8
9	総合東洋医学演習 9
10	総合東洋医学演習 10
11	総合東洋医学演習 11
12	総合東洋医学演習 12
13	総合東洋医学演習 13
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース (総合解剖演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし. 配布資料で実施する.
参 考 書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと. 復習を必ず行い, 記憶すること. 鍼灸師にとって必要な解剖学の知識を確認すること.

科目の目標	解剖学の基礎力を固め,考える力を養う.
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う.

日程

回 数	授業内容
1	総合解剖演習 1
2	総合解剖演習 2
3	総合解剖演習 3
4	総合解剖演習 4
5	総合解剖演習 5
6	総合解剖演習 6
7	総合解剖演習 7
8	総合解剖演習 8
9	総合解剖演習 9
10	総合解剖演習 10
11	総合解剖演習 11
12	総合解剖演習 12
13	総合解剖演習 13
14	総合解剖演習 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース (総合生理・病理演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア) 「標準生理学」(医学書院) 「標準病理学」(医学書院) 他
成績評価	定期試験により評価。
留意事項	専門用語の位置づけ、各用語間の関連付けや、各用語の類似点・相違点の再確認を行う。 用語の理解が足りない点については授業時間以上の時間を割いて学習すること。

科目の目標	教育目標：生理学、病理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標：生理学、病理学教科書にある専門用語について概ね解説ができる。
授業概要	教科書について、印象付けを強くしておくべき内容の再確認を中心とする。 オンラインを併用するため疑問点は登校時に担当教員へ確認をすること。

日程

回 数	授業内容
1	神経の復習 1
2	神経の復習 2
3	神経の復習 3
4	神経の復習 4
5	筋の復習 1
6	筋の復習 2
7	運動の復習 1
8	運動の復習 2
9	感覚の復習 1
10	感覚の復習 2
11	病理学の復習 1 (病因、循環障害)
12	病理学の復習 2 (退行性病変, 進行性病変)
13	病理学の復習 3 (炎症、腫瘍)
14	病理学の復習 4 (免疫異常、先天性病変)
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース (総合衛生・リハビリ演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし。配布資料にて実施。		
参考書	「医療概論」	(公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)	
	「関係法規 第7版」	(公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)	
	「衛生学・公衆衛生学 第2版」	(公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)	
	「リハビリテーション医学 第4版」	(公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)	
成績評価	定期試験にて評価		
留意事項	問題点を見つけ出すこと。		

科目の目標	社会に関連のある公衆衛生学・リハビリテーション学を総合的に学習する。
授業概要	現代社会と公衆衛生の関連・現代社会のリハビリテーションを様々な事例から関連付けていく。

日程

回 数	授業内容
1	現代社会と鍼灸 1
2	現代社会と鍼灸 2
3	現代社会と鍼灸 3
4	リハビリテーションと鍼灸 1
5	リハビリテーションと鍼灸 2
6	リハビリテーションと鍼灸 3
7	リハビリテーションと鍼灸 4
8	リハビリテーションと鍼灸 5
9	リハビリテーションと鍼灸 6
10	リハビリテーションと鍼灸 7
11	リハビリテーションと鍼灸 8
12	リハビリテーションと鍼灸 9
13	リハビリテーションと鍼灸 10
14	リハビリテーションと鍼灸 11
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床力重点コース (総合臨床医学演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験にて評価
留意事項	復習を必ず行い、記銘・保存・想起の訓練を行ってください。

科目の目標	鍼灸師に必要とされる現代医学知識の再確認と教科書の順番に捕らわれない練度の向上を目指します。
授業概要	臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて習得した知識のすり合わせを行う。

日程

回 数	授業内容
1	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用①
2	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用②
3	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用③
4	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用④
5	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑤
6	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑥
7	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑦
8	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑧
9	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑨
10	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑩
11	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑪
12	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑫
13	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑬
14	総括
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース (総合東洋医学演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	黒 岩 太	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」 (公社) 東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社) 東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	特になし
成績評価	定期試験にて評価
留意事項	東洋医学概論をしっかり復習すること。

科目の目標	東洋医学概論の応用を目標とする。
授業概要	東洋医学概論の総まとめ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 総合東洋医学演習 1
2	総合東洋医学演習 2
3	総合東洋医学演習 3
4	総合東洋医学演習 4
5	総合東洋医学演習 5
6	総合東洋医学演習 6
7	総合東洋医学演習 7
8	総合東洋医学演習 8
9	総合東洋医学演習 9
10	総合東洋医学演習 10
11	総合東洋医学演習 11
12	総合東洋医学演習 12
13	総合東洋医学演習 13
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース (総合臨床演習Ⅰ ＜中医診察法・美容鍼灸＞)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	石田 大弥 (中医診察法) 北見 成達 (美容鍼灸)	教員区分	一般教員

石田 大弥

教科書	特に必要なし (配布資料で行います)
参考書	配布資料
成績評価	定期試験による。 50点満点とし、美容鍼灸の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	体調管理に勤め、遅刻・早退・欠席の無いよう心がける。

科目の目標	中医学の理論体系を理解し、鍼灸臨床へ応用する。
授業概要	中医学の基礎 ～ 臨床応用を学ぶ。

北見 成達

教科書	配布資料
参考書	配布資料
成績評価	実技試験と出欠席状況による総合評価とする。 50点満点とし、中医診察法の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	復習、予習につとめ、実習に相応しい服装、身だしなみを心がけ参加すること。

科目の目標	美容鍼灸に必要な知識と技術を習得し、個々の主訴に対応する美容鍼灸施術を習得する。
授業概要	鍼灸施術による健康状態の改善方法と、各損容性疾患の発生機序と対応施術を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・中医学基礎理論 1 (石田)
2	中医学基礎理論 2 (石田)
3	中医学基礎理論 3 (石田)
4	中医学臨床論 1 (石田)
5	中医学臨床論 2 (石田)
6	筆記試験 (石田)
7	フィードバック (石田)
8	まとめ (石田)

9	講義「美容鍼灸とその効果について」及び実技「表情筋の触察」	(北見)
10	フェイシャル	(北見)
11	各損容性疾患（シワ, くま, ニキビ等）の症状に応じた刺鍼1	(北見)
12	各損容性疾患（シワ, くま, ニキビ等）の症状に応じた刺鍼2	(北見)
13	各損容性疾患（シワ, くま, ニキビ等）の症状に応じた刺鍼3	(北見)
14	実技試験・各損容性疾患（シワ, くま, ニキビ等）の症状に応じた刺鍼4	(北見)
15	フィードバック	(北見)
16	まとめ	(北見)

科 目	臨床力重点コース (総合臨床演習Ⅱ 〈現代診察法・東洋診察法〉)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	森田 義之(現代診察法) 岡田 明三(東洋診察法)	教員区分	一般教員

森田 義之

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	特になし.
成績評価	定期試験による. 50点満点とし, 東洋診察法の期末試験の得点との合算とする.
留意事項	解剖学の運動器を復習しておくこと.

科目の目標	痛みに対する療法のトリガーポイントの基礎を理解し、臨床現場で適切な患者応対ができるようにする.
授業概要	習熟度が一定レベルに到達するよう、診断論と治療論の習熟に努める.

岡田 明三

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「日本鍼灸医学 基礎編」(経絡治療学会)
成績評価	臨床カルテ作成による評価. 50点満点とし, 現代診察法の期末試験の得点との合算とする.
留意事項	教育用診察録(岡田作成)を使用する.

科目の目標	東洋医学的診断を修得する.
授業概要	座学と診断法の実習.

日程

回 数	授業内容
1	トリガーポイント鍼療法概論 (森田)
2	頰椎における筋の力学と鍼灸への応用 (森田)
3	腰椎における筋活動の力学と鍼灸への応用 (森田)
4	肩複合体における筋活動の力学と鍼灸への応用 (森田)
5	膝関節における筋活動の力学と鍼灸への応用 (森田)
6	自律神経とトリガーポイント鍼療法の関係 (森田)
7	定期試験・フィードバック (森田)
8	授業総括 (森田)
9	東洋医学的診断の総論 (四診について) (岡田)
10	東洋医学的診断の各論 (望診、聞診、問診) (岡田)
11	東洋医学的診断の各論 (切診) (岡田)
12	診察法の実際 (岡田)
13	臨床カルテ作成① (岡田)
14	臨床カルテ作成② (岡田)
15	定期試験 (岡田)
16	授業総括 (岡田)

科 目	臨床力重点コース (総合臨床演習Ⅲ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾・本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	臨床録と出席状況に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装, 態度で臨むこと。

科目の目標	治療の一連を来院患者に対し的確に体系立てて行えるようにする。
授業概要	本校での教育の核となる臨床教育の最終部分となる授業である。 実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次, 2年次, 3年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

日程

回 数	授業内容
1	総合臨床演習 1
2	総合臨床演習 2
3	総合臨床演習 3
4	総合臨床演習 4
5	総合臨床演習 5
6	総合臨床演習 6
7	総合臨床演習 7
8	総合臨床演習 8
9	総合臨床演習 9
10	総合臨床演習 10
11	総合臨床演習 11
12	総合臨床演習 12
13	総合臨床演習 13
14	総合臨床演習 14
15	まとめ 1
16	まとめ 2